
らき すた 彼女達と過ごした日々・忘れられない宝物

彼方からの翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

らき すた

彼女達と過ごした日々・忘れられない宝物

【Zコード】

Z0642T

【作者名】

彼方からの翼

【あらすじ】

一度全て（記憶）を無くした少年、水野 優希がこなた達と過ごす日々を送り、彼の日常を大きく変えてゆく・・・
その中で彼は大切な宝物を手に入れてゆく・・・
仲間という大切な宝物を・・・

第一話 僕の口算

…………なんだ？

…………ゆ…………き…………く…………

…………なんだつて？

…………じや…………あ…………ね…………

待つて！待つてくれ！！

「コンビ……！」

「痛ツ……？？なんだ！？何が起こうた……て……んだ……」

「ほーい、うしごの授業で寝るとほいに一度脇しとるやないか……」

「いや、先生これはですねえ……あれですよーーあれー！」

□ ン君の麻酔銃に撃たれかけつ
たんですよー。

後ろからいづバンツーつて。いや

（＼、あれ凄いですね！

「あはははは……」

「あははは、そつか、そつか、そなにつけの授業がつまらなかつたか……

「ほんじゃない、うしが楽しくしたるつか？」

「いや、大丈夫です……さあ、先生！授業始めましょ～！」

ガンツ……！

「ほな、授業始めるで～」

「いってえーーー？なんでーーーどうしてーーー？」

「じーんとー、テストにだすから覚えとけよ～」

ユウキ「スルーですかーーー？」

・・・・・・・・

・・・・・いつも通り過ごし、いつも通りの日常を送つていいく・・・

・・・セヒに4つの光が俺を照らすまでは・・・

第一話　俺の日常（後書き）

初めてなんで下手なので、注意点があれば遠慮無く言つてください
ね！

第2話

人物紹介！パート1！（前書き）

ん

今回は人物紹介です！パート2もやるかもしだれませ

第2話

人物紹介！パート1！

水野優希：^{コウキ}顔は女子っぽくって

おっちょこちよい性格で、優柔不斷なため

たまに、女子に間違えられるのが悩みらしい・・・

好きな食べ物は、甘い物で特にパフュ

嫌いな食べ物は、ピーマンだそうだ

一人暮らしので、料理や掃除などのスキルは高い

なぜか喧嘩では、負けないらしい・・・

ゲームやアニメなども好きで、ほぼ毎日ネットゲに⼊つて

授業中などもよく寝てている

・・・過去の事はあまり人には教えたくないらしい・・・

高校に入つて彼の生活や日常は

こなた、かがみ、つかせ、みゆきを始めとする

たくさんの人々達と過ごし、

彼の心がたくさんの光が照らされていく・・・

第2話

人物紹介！パート1！（後書き）

まだあんまりキャラが固まってないので

今回はキャラを固めて次回に話を進めたいと思います

やヴァー・・・私、まだ次回考えて無いよ～（泣）

第3話 青い髪の少女たち（通書モ）

今日は、 ひなたと会つ話ですー。

第3話 青い髪の小さい女の子

「ふひ、やつと終わったー」

俺が何をやつてたかといつと、居眠りの罰で一人でこの教室を掃除してたわけだ

「気晴らしにゲーセンでも行くか」

・・・・・

こなた side

やふー、ひさびさにゲーセンに来たよ
かがみ達は、今日用事があつて遊べないんだつて
しうがない、格ゲーで退屈をしおぐかなー

・・・・・

ん~、この人ちょっと戦い方にクセがあるかな?

下から上げて、技で落とすだけだとさすがにな~つかれたよ

「ちくしょう! なんで勝てねえんだよーー! 何処のビコつだー!」

あちゃー、対戦相手の人怒ってるよ、しかもやっぱそう・・・
どうしよう?

「てめえか、ちょっと一発殴られるやーー！」

「ちよ、（・・・）私、女だよ！？
私は、殴られるのが怖くて口を閉じた

・・・・・

・・・　あれ？痛くないけど何かあつたのかな？

私は恐る恐る口を開けた・・・その先にあつたのは・・・

「え、水野くん？」

優希 side

ゲーセンに入った途端、なんか騒がしいと思つたら
喧嘩が起こつてた・・・まあ、俺には関係無いか・・・
・・・見たこと無い奴だったらな・・・
俺は、走つて男と泉の間に入つて男の手を止めた

「み、水野くん！？」

「大丈夫か？ 泉？」

「え？ ああ、うん・・・」

「ちよっと下がつてろ・・・すぐ終わるから

「女の前だからってカツコつけんじゃねえぞー！」

男は、またストレートに殴つてきたが、俺はそれを軽く右手で受けた下げつ、後ろに下がつてから

前にでて左手で一気にカウンター氣味に鳩尾を殴つた・・男は、それで床に沈んだ・・・

「ふう、よかつた、よかつた。んじゃ、帰るわ・・・

「待つて！水野くん！」

「ん？どうした？」

「助けてくれて、ありがとね！私、泉　こなたよろしくね～」

「俺は、水野　優希　まあ、よろしくへ

」「うひして、俺は巡りあつた・・・

俺に、たくさんのお宝をくれた泉　こなたに・・・

第3話 青い髪の少女（後書き）

遅れています！

さて今回は、優希がこなたに会った話にしてみたんですけど
どうでした？

次回は誰にしようかな？（オイッ
では、また次回で！

第4話 紫の双子の姉妹 前編（前書き）

今回は、ちょっと分けます。

第4話 紫の双子の姉妹 前編

「あなたと優希が出会つてから、次の休みの日・・・

「へへ、昨日ゲーセンで絡まれたのをクラスの男の子に助けられた」と

「えへ、こなちゃん。絡まれたの？大丈夫？」

「へーきだよ。ケガしていないし」

「その男の子に助けてもらつたからでしょ」

「う、・・・まあ、いいじゃん！結果オーライってことで・・・

「はいはい。で、どんな人なの？」

今、私とかがみとつかさは昨日のゲーセンにきたよ！
なぜかつて？ふふふ、それはだね、かがみとつかさが欲しそうな
のを見つけたのでまた来てみました！

・・・どんな人かあ、実はあまり知らないんだよね～

あのあと、すぐ別れちゃたし・・・

今度会つたら、お礼しなくちゃ・・・

「ねえ、こなちゃん」

「ん、どしたの？つかさ？」

「あの人って、たしか・・・その・・・こなちゃんが言つてた、水野くんだよね・・・？」

「え？」

優希 side

昨日の騒ぎで忘れてたが、コアメダルの第5弾を買いつれてたんだよなー

さて、フトティラの力！さっそく見せてもうせー！ブツトテ
イラノーヘザウルス

・・じばらくお待ちください・・

この必殺技俺大好き・・・（ううとり
よし！あと、一回見よう・・・・・ん？
あれ？なんか忘れてるような・・・

は！？

俺は、一体何がしたかったんだ！？
今日は、ほかにもゲームとか本とか、買つ予定だったのに・・・

くつ！これが、プトティラの力か！！

「んなわけ、あるか！」

ゴンシッ！！

「痛！？～～～誰だよ！？・・・・・あれ？泉？」

「やふー、また会つたね～」

「えつと、そつちの柊？と、どちら様で？」

「私も、柊よ！柊　かがみ！で、じつちが妹のつかむ」

「ど、どりせむ～」

優希「ここから先は」

こなた「また次回、後編で！」

優希・こなた「バイバイ～！」

第4話 紫の双子の姉妹

前編（後書き）

後編に続くーー！

第5話 紫の双子の姉妹 後編（前書き）

前編の続きですーー！

第5話 紫の双子の姉妹 後編

「えっと、柊 かがみさんに柊 つかさんね……うん、覚えた！ よろしく！」

「え・・・あー、うん、よろしくね」

「水野くん、よろしく～」

「・・・で、みんなは何をしてたんだ？」

「ん～？ かがみとつかさが欲しそうなのがあったから、一人にどうかな～つて水野くんは？」

「俺？ 俺は昨日買いたい忘れたグッズを……」

「この先を直つと、この三人の俺を見る田はビツなるんだ？」

・・・・優希の空想・・・・

「あー、水野くんってそういう趣味だったんだ～（ニマニマ
でも、『めんね～私そっちの方はまったくわかんないんだ
よ～』

「私も、そつちは知らないし・・・・てゆーかこなた？」

「うーこのとせきぐらうじ、苦渋するからやめとせって」

「『めんね～、水野くん。私もこうつのお姉ちゃん達と一緒に
一緒に知らないんだ～でも、誰かはわかつてくれると思つ
よ～』
・・・・・最悪のビジュンだあああーーー？

どうすればいいんだーへ、どうやつたらこの危機を・・・パタ
ツ・・・ヤバイ!!

「あれ？水野くん何か落ちたよ～？はい・・・あれ、このカードの
絵つてこなちゃんがなんか、ものマネしてたやつじやないつけ？」

「俺の強さにお前が泣いたー！」

「お前、倒すけどいいよね？ 答えは聞いてない！」

「えっと・・・わたし、なんじょー?」

なんか三人が俺を見てる・・・

え、これ俺も言うの！？

というか、分かるのかよ！？

泉が早く、早くしてショスチャードでぐるぐる……

•
•

「お前、僕に釣られてみる？」

正直だ・・・・・はあー

「どうで、かがみあれなんだナゾア、ギリギリへ

「おー！これ欲しかったのよー！よーし、ガチャ 右に行つて・・・
・あ、ちょっと行き過ぎー！

もう一回 ガチャ ミスらないよつこ・・・・上に行つ
て・・・ちょっと呪りなかつたー？嘘でしょーー？
まだまだ・・・

「なー、泉」

「ん~、何？」

「終つて、負けず嫌いなんだな

「うん、そうだよ。ま、そろそろ止めてあげよつか。
おい、かがみ~もう、やめとけば?」

「……」なたあああ！（泣）全然取れないのよ、これ！
もう、一千円使ったのに……

「おー、どうぞどうぞ。」

クレーンは、久々だな

るか・・・ま、さすがにあれば可哀想だしな・・・ガチャ
取つてみ

ウイーン
ブーン
ガチャ
ウイーン
ボトツ

お、いけたな～よし、もう一丁…ガチャ

「あれ? なんで一回田?」
「ま、いいから、いいから」

ウイーン ガチャ ウイーボトツ

あー、落ちたか・・・まだまだ・・・ガチャ

ウイーン
ブーン
ガチャ
ウイーン
ボトツ

「ま、こんなもんかな・・・ほれ、柊姉やるよ。
あと、妹はこれだろ? 泉はこれ」

「お~、私も取ってくれるとは~ありがとね~」

「え? 私にも? もらつていいのかなあ?」

「気にすんなって。ずっと見てたる、そのぬいぐるみ」

「え、え~私ずっと見てた! ? そんなに! ?
私つて、分かりやすいのかなあ?」

水野くんにもらつたこのぬいぐるみ、大事にするね~」

「ほれ、柊姉・・・って、どうした?」

「あ、ありがとう・・・このぬいぐるみ取つてももらつたうえに、
もらつちゃつてもいいの?」

「俺は喜んで欲しかったから、取つたんだぜ?」

柊も、欲しかったから慣れてないのにがんばったんだろう?
なら、それは柊ががんばった証だろ? 違うか?」

「…………あ、ありがと」

「ん？なんだつて？」

「なんでもないわよーさ、早く帰るわよー！」

「おー！かがみが『テレた！』

あの、シンデレカガミを攻略するとは～
これは、水野くん、フラグゲットかな？（『コンシ～』）
もきやああ～！いたい～、いたいよ～かがみ～（泣）」

「なう、シンデレラ～たぐつ～」

「あはは～・・・（苦笑）」 「おこおこ～・・・（苦笑）」

・・・・・・

「あ、私こっちだから、かがみ、つかさ、水野くん。バイバイ～」

「私たちば～」ち、それじや水野くん、またね」

「また、遊ぼうね～水野くん」

「ああ、またなー！」

・・・心はからつぽだつたのに、・・・

・・・いつしか、また会いたいと思っている人達がいた・・・

第5話 紫の双子の姉妹 後編（後書き）

次回は、誰かな？？

まあ、分かりますよね（笑）

・・・やつと、かがみどつかさに出会えた・・・・！

第6話

パンクの髪の萌え要素（前書き）

「なたとかがみ、つかれに会つてから」「田田の朝

・・・そんな中、一人の少年が田を覚ました・・・

今田は、何が起ひのやう・・・

第6話 ペンクトの髪の萌え要素

ん~、よく寝た~ふあ~

そとと・・・わざと朝飯食つて行くか・・・

・・・・・

よし!準備オッケー!

忘れ物は・・・無いよな?

それじゃあ、行つてきます・・・父さん、母さん

・・・・・

・・・・・

今日も、いい天気だな~

こうこう今日は、何かいい事ありそうだな~

ふあ~、あくびも止まんねえ・・・

「お~い、待つて!」

・・・だれだよ?ん、いない?

あ～～、見てもだれもいない？

「…………下だよ～」

下?言われたとひつ

下を見てみると、小さっこ体で、
ぺたんとした残念な胸、トドメに長い青い髪の上に
アホ毛を立たせているうつとムスッとした泉がいた。

「…………今、私の事おもいつきりバカにしなかつた?」

「な、なわけないだろ!…?氣のせいだつて……」

「…………いいもん、別に。外国じゃあ小さい子は需要たっぷりだし、
貧乳はステータスだもん、希少価値だもん……」

そう言って泉は、むちゅくちゅ凹みながら
学校に行く道を行き、俺はとくと泉をなだめる為に
謝つたりしてると泉が……

「じゃあ、今度私の言つ事を一回聞いてくれたらいいよ～?」

「いいや」

「あらへるか、普通…？・・・えーと、それ以外は？」

「無こよ～～～♪」
「ひー」

「うーん、どうする？」

泉が立んだのは、俺のせいだしな
言つ事を聞くか・・・何やらされるのやひ・・・井、いつか
一つのおかげで、おとといは楽しかったし・・・

「よ～しー。その条件、乗った！でも、機嫌なおしてくれよ～。」

「おひけ～～～！」キーン、コーン・・・・「あ、やっぱー・

「これ予鈴だよー～水野くん、早く行かないとー。」

・・・・・

「それじゃ、出席取るで～、秋山、「はい」泉、「・・・」

泉？お～い、なんや欠席かいな・・・「「遅刻じゃないで

すー～？」

・・・それじゃ、泉？理由は？」

「いやー！たい焼きを盗んじやつた子がですね～！

こきなり、私たちの手を取つて走りましてね～ね、水野く

ん！？

「そうですよ！ 泉の言うとおりですよ！」
大変だつたんですから！ お店の人に一緒に謝つたり
したんですから！ なあ、泉！？」

「ほら、遅刻じゃないでしょー?」

「二人まとめて、黙つとれ！！」

ガンツ！

ガンツ！ ガンツ！

「いつてええええええええーー!? なんで、俺だけ一発ー?」

「はよ、座れ！そこの二人！」

「 はい 」

・・・休憩にて・・・

「黒井先生のげんこつ、あれおかしいって（泣）
まだ痛いもん・・・ね、水野くん？ん、おーい！聞こえて
るへ。」

「」なちやん～ゆきちやん連れて・・・」

「今日は、いきなり不幸だあーーー。」

「わー～びつくつしたーどうしたの？水野くん？」

「あの～、大丈夫ですか？泉さん、まだ、痛むんですか？」

「あ、柊さんに・・・わかつたー高良さんだーあつてぬー。」

「ええ、高良　みゆきです。よろしくお願ひします、水野さん」

「あれ？なんで俺の名前がわかつたんだ？」

「つかれさんには聞いたんですよ。優しい男の子を紹介してあげると
言われた時に名前を聞いたんですよ。」

「あ、そゆ」と

ん？知らないはずなのになんで高良さんの名前がわかつたか
だつて？

そんなもん決まってるだろ？
美人で、メガネで、きょ・・・げふん！げふん！
ともかく萌え要素がたくさんの人だからさ！

「ん、よろしく。高良さん」

・・・・・

・・・彼女たちと出会って数日

・・・だけど、昔からの友達みたく

・ すと一緒についたよつな氣がする
・ なんなんだ〜この氣持ちは?

第6話

パンクの髪の萌え要素（後書き）

今回は、なんかむりやりいつたよつた『仮がしますよね？』

私には、みゆわざをつましく出せないー？（泣）

第7話 仲良くなつた

「なあ、柊姉～」の問題ついでひつやるんだ？俺にひまつぱつなんだ
が・・・」

「「あら～お姉ちゃん。私も教えて～？」

「ん？」ひまね。XをYに足したつぶでね・・・・て、つかれ。
あんたまたなの？」

昨日遅くまで勉強してたんじやなかつたの？」

「は、はうへーーー、それはね～ちよつとやつたら飛びくなつちやつて。
・・気づいたりもつ朝なんだよ～
びつくつしきやつたよ～」

「あはは、柊妹はなんというかドジっ子なんだな」

しかも、かなりのレベルのドジっ子属性であることがここ
数日で分かつたことだ！あと、料理が上手いらしい・・・・本當
かちよつとまだ怪しいけどな？なんか調味料の砂糖と塩を間違えそ
うだ。

「・・・といふか、水野くん？」

「ん？何かあったのか柊姉？」

俺が返事をすると、柊姉はなんか不機嫌そうな顔した。
なんかまずい事でも言つたか？

「いつまで柊姉とか妹つて言つつもり？」

・・・・・

・・・・・あれ？これフラグたつてる！？
まさか、このあとががみさんと付き合つたりできるかも！？
・・・・・バカらしい。ただそういう言い方が嫌いなだけなんだろう？

「え～と、つまり名前で呼べってことか？」

「これなんて、ギャルゲー？」

「おお～、何かギャルゲーみたいな展開だね～？この～」

「わー！？びっくりした！！いつからいたんだ！？泉、高良さん！？

何故高良さんって呼んでるか、分かるか？

・・・・・最初に話した時から、なんか俺とは全然違う、
何処かのお嬢様みたいだな～って思つてたら、実際その通りで、品
行方正でメガネで、ナイスバディーの萌え要素たっぷりのお嬢様っ
て泉が言つてた・・・・・さん付けしないとダメだろ？

「かがみんが水野くんとフラグ建築しようとした時」

「いや、立てた覚えはないからなー?」

「いやー、もうお一人さん。思ひつたりだねー?」
ガニッ!
バチッ!

「ねえ、ゆきちゃん。」

「どうかしましたか、つかれさん?」

「」なにやん、最近叩かれっぱりだよねー?」

「…確かにやつですね。」

「あと、フラグって何?ゆきちゃん?」

「フラグ…旗の」とじょつか?でも、建築?えつと、すみません

天然と天然つて会話がずっとHondress…終わる気がしないな。

「こしても名前で呼ぶつて……お前はいいのか？」きなづ名前で呼ばれても

「私は、いいよ。」なたつて呼んでね～」

「私も、呼んでね。かわ「がみん」つて、こなた！」「分かつたぜ！かがみん！」ボ「ツ！・・・かがみつて呼びなさいよ」

「私も、呼んでね～。つかわ・・・（ちよつと恥ずかしいかも）～／＼）つて呼んでね～」

「私もお願いしますね。みゆきでかまいませんよ？」

なんか恥ずかしいな・・・
でも、やつぱりいいな」つづのも・・・

「えつと、こなた。「ほいほい～」かがみ。「ん、なに？」つかわ。
「どうかしたの～？」みゆきさん。「さんは無くてもいいですよ
そつか？・・・」

これを書つのは、まだ早いよな？

少なべとも、余計な心配はせたくないこし・・・

「「「「えいかしたの（ですか）、優希くん（やうくん）？」」「

「いや、なんでも無い。・・・お、やつだーい、いや・・・こな
た、今田の放課後あいてるか?」

第7話 仲良くなつた証（後書き） (あた書き)

今日は、名前呼ばれたり、呼んだり……まさに青春ですね(笑)

さて、こなたを誘つた優希……どこへ行く予定なのや？

では、また次回で！

第8話 こぞり、いかん！聖地へ！

こなた side

「今田は、お宝ばっかりだったよ
みよ！この宝物達の姿を！」

エヴァ リオンの限定フィギュアに、涼宮 ルビの追想
～長門有希の落とし物～に、けおんのエクストラフィギュアとあ
とは、マンガが三冊ぐらいかな？

まさか、こんなに買い忘れたお宝があるとは・・・

もしかして、かなりのラッキー！

これも、優希くんに感謝感謝だね！

優希 side

「なん・・・だと・・・！？今日発売のレア物とかはともかく、俺
が買ったかったものが全滅！？」

・・・嘘だ！そんなの嘘だ！誰かが目の前で買ったとか
じゃなくて、店の定員が隠したんだなんて嘘だ！

なんなんだ！？この店！？俺とこなたが入った瞬間空氣
が変わったんだぞ！？

「・・・なあ、こなた？アニメイトってあんなところだったのか・・・

今、俺達はアニメイトに行き、こなたは大量の宝物達を手に入れ、俺は結局何も買えなかつた・・・o r s

「まあ、あのお店はいつも定員が熱いからね~

優希くんあの後これから走ってくれの？

「へ？後ろ？て、うおおおおー！？あれって・・・」

「アニメ店長！？」

アニメ店長 Side

! ! !

何故、今日は買つてくれたんだ？前は買つてくれなかつたのに・・・

確かもう一人少年がいたな・・・彼のおかげか！？

なら、お礼をしなくては！彼はこのへんのグッズを見てたよな・・・よし、行くかあああ！待つていろ！伝説の少女Aの横に居た少年！！！

なんなんだ！？あの店長！？
いきなり走ってきたぞ！？あんなに荷物持つてなんであんな
に速いんだ！？

「と、ともかくなた！！逃げるぞ！」

「え、逃げるの！？なんかいっぽいレアグッズ持ってるよー！」

「そのとうりいいいいい！－さあ、このグッズ達が欲しければ待
てええええ！」

「なにいいい！？まじで！？しかも、それ今日俺が買えなかつたやつばつかだ！待つ、待つからくれ！」

俺、なんか喜ばれることやつたけ？

そう思いつつ、店長から荷物をもらおうとした瞬間なぜか・・

下座されたうえに、おもいつきり泣かれた・・・。なぜ?

「よしー！」これからもアニメイトをよろしくー！来てくれば、ポイ

話を聞いてみると、店長いわくこなたが何かを買うとその店は、一気に大手企業並に勝ち組のなみに乗れるジンクスがあるらしいと・・・本当か？それ？

ントをオマケしてあげよつじやないかーじゃあな、伝説の少女A！

えーと、「水野です、店長ー」

水野！これからは俺の時代だ・・・ふつふつふ、いやあふううう

ううう！ーーー

「

そう言つて、店長は走つて帰つて行った・・・何だつたんだあの人？

なんかこなたと交流を深めようとしたのに、上手くいかねえなーとも思った俺がいた。

「・・・なあ、こなたは今日、楽しかったか？」

「ん？私は楽しかったよー、グッズも手に入つたし（店長のおかげで優希くんのいろいろなところ見れたしね？）優希くんとトークもできましたね～（ニヤニヤ）

「なー？か、からかうなよーほ、ほり、帰るぞー！」

「あー待つてよー優希くんーーー！」

第8話 こぞり、いかん！聖地へ！（後書き）

遅れています！

昨日書こうつて思つてたら、寝ちゃつてました（キラッ

反省中・・・

じ、次回・・・赤の妹キャラ・・・ガクツ

第9話 赤い小さな妹キャラ

前編（前書き）

今回も、二つに分けます！

第9話 赤い小さな妹キャラ 前編

「……こち、異常無し」

「アーマー、異常無しです。隊長。」

「よし、作戦を開始するうううううう！」

ପ୍ରକାଶକ ମେଳିତିନ୍ଦ୍ର

•
•
•
•
•
•

一方そのころ・・・

馬の馬鹿で、金を失った。方里修也

「さて、今日は何をしようかなー？ やっぱり最近忙しくてできなかつたゲームか？ それとも、前店長にもらつたマンガでも、読もうかなー？ ぐー、やりたいことがありますー！ ともかく遊ぶぞー！」

・ 4 時間後、時間は 5 時半

「ふあ～、腹へつた～」でもう二、三時間かよ。まだ、もつちゅうと遊びたかったのに・・・

晩飯の買い物ぐらいは行かなきや」

えーと、財布と携帯もつたな？行つてきま～す。

•
•
•
•
•
•
•
•

さて、今日は何しよう?

腹へつてるからちょっとガツツリしたのでも作るかな?
でも、だるいなー、よし! 決めた!
今日も、簡単ごしチャーハンでいいや。

そろそろ決まりたらいふは……お
今日は何なのこの安物
！？明日とかのものも買つとくか！

いやー、今日セールだったのかよー、来てよかつた
でも、なんか店でてからずっとつけられてんだよな・・・
一応巻いとくか。

そう思つた瞬間、走りだしてともかく角を曲がりまくつた。
相手も見失つたみたいだ。

『おい、あいつどこに行つたんだ！？』

『これじゃあ、MFS作戦が使えねえだろ！？』

『まだ、近くにいるはずだ！探せえ！』

なんか三人とも、声は聞いたことはあるんだけど・・・
顔が見えねえ。ま、さつさと帰るか。

帰り道、なんか小学生ぐらいの女の子が疼くまつてた。
さすがにほつとけないので声を掛けみてた。

「えーと、大丈夫？君？」

いきなり声を掛けたせいか
その子はビクッとしたあとゆっくつこつちを向いた。

「大丈夫ですよ・・・ありがとうございますね・・・」

な、なんだつてえええ！？（。。。）
何この子！？可愛いすぎる！お持ち帰りいいい！したい！
て、俺のバカ！？そうじやないだろ！？
助けなきゃダメだろ！？

「本当に大丈夫？お家に帰れる？」

俺がそう言った瞬間、その子は倒れた。
て、大丈夫じゃないじゃん！？

俺は急いでその子に駆け寄り悪いと思ったが熱を測つてみた。

「・・・」めんなさい、お家まで連れてつてくれますか？

フラグゲットおおお！

なんてやつてる場合じゅねえ！

女の子をおぶつて何処に行けばいいか聞いつとした時

「ちょっと待つたあああ！」

誰だよ！？こんな忙しい時に！？
後ろを見てみると・・・

「なーーお前はーー？」

第9話 赤い小さな妹キャラ

前編（後書き）

ゆたかと出会つた優希！

そして、いきなりきた男達！誰だろ？

優希は、ゆたかを家まで送れるのか！？

次回！赤い妹キャラ 後編！

第10話 赤い小さな妹キャラ

後編（前書き）

前編の続きです！

第10話 赤い小さな妹キャラ 後編

「な!? お前らは!?

・・・・あー、すいません。どちら様ですか？」

ボキッ！（三人の心が折れた音）

『やつぱり・・・俺達はここで終わるモブキャラだったのか・・・』(涙)

『悪い白石・・・俺達はもうダメだ・・・あとは、ま、かせ・・・』
（バタツ）

「な、神山！？それに蒼井まで！？」

ちくしょー！！俺一人でもやつてやる！

おいで！水野！俺と勝負し……で
いいじ！

・・・・・一方そのころ優希達は

「いやちで、合つひるへーラーと、……せつこえざな前聞いてなか
つたね？」

俺、水野 優希。よゐじゅくいー。」

「いや、小早川ゆたかです……あはは、なんか変な感じですね?
改まつてみるとなんか、恥ずかしいなあ～」

「ん、下ろしたまづがいいかな? 小早川さん?」

「あへ、このままでお願いします……（なんでだろ? 水野さんに
は、今日初めて会つたのに……なんだか安心できる……気がす
る）やよっとまだ、気分が悪いんで寝ちゃつてもいいですか?」

「ん、やつてなら、寝ちゃつてもいいよ、小早川さん。（俺!/? 抑
えろ!/?お持ち帰りいいいい…しあやダメだ! 目覚めるな、俺の
野生!…）

・・・・・

・・・・・今日は、みゆきさんのお家に行き、面白い話を聞いた・・・

みゆきさんのクラスメイトの話だつた・・・

水野 優希さんという男の子の話が特に印象的だつた・・・
みゆきさん達は基本4人での行動だつたから、誰かな?つ
と思つたから・・・

話を聞いてみると、とても優しい人らしい・・・

・・・・・

・・・・・私は、今、チエリーの散歩の帰り道・・・
・・・・・曲がり角を曲がる時、私の友達が知らない男
の人の背中に乗つてゐるのを見つけた・・・

「・・・・・ゆたかっ!!--」

「へ?えーと、こ、これは誘拐とかじゃないからねー本当だからつ
!」

・・・・・この人!?ゆたかを誘拐しようとしてる・・・!
・・・・・私がゆたかを守る・・・!--

「…………ゆたかを離して下れ」…………」

「君、なんか勘違いしてない!?俺はただ小早川さんを」「水野
おおおおおおおおおお!?!お前また、そんなかわいい子と···!
!···・「ロス···・ー」「なんか、二人とも復活してるし!ゴ
メン!小早川さんをお家まで連れてつてくれない!?お願い!それ
じゃ!」

「只今より、MFS作戦を発動するつ！！！」

『『了解！！！』』

「なんだよー? その作戦! ? なんの略だよー? 」

「m=水野を f=フルボッコに s=しよう? だあーーー!」

「…………ん？あれ？みんなみちゃん？」

「・・・ゆたかっ！大丈夫！？・・・」

「うんっ！水野さんが助けてくれたんだ！」

「・・・え？水野さん？もしかして・・・あの人が？・・・」

第10話 赤い小さな妹キャラ 後編（後書き）

今回から、こなた達に次回予告してもらいます！

優希「次回！

白石VS水野・・・って、俺！？俺なの！？
どうして、こうなった！？」「

第1-1話 白・・・白・・・セバスチャン！

小さな子、小早川ゆたかひやんと玉依りで、

なつかか白口に追いかけられてから | 口後 · · ·

「あ、すこひやんおはよ～」

「おはよ、つかせ・・・つてすこひやんって俺のことへ。」

てかなんで、すいちゃん？

俺の名前の中に『すい』はないだ？

「あはは、それはね～むーちやんはもうこなちやんが・・・」「水野
おおおおおおお！～勝負しろおおおおおおお～～」「またかよ～？とい
うか、なんでそんなに俺と勝負したいんだ！？」、「お前を倒さない
とこの嫉妬心が静まらないんだよおおおおおお～」、「知るかああ
ああああああああああ～！」
「逃げるな～？勝負しろおおおおお～」

「・・・・・ぐすん(一 一)」

「だ、大丈夫だよつかさー私も最近スルー気味だからー今は、耐えるんだよー。」

「あーこなた、それ自分で言つて悲しくないか?」

「さみしいに決まってるだ、かがみーつづー（ゝ人ゝ・）はやく帰つてきてね、優希くん～（涙）」

・・・・・

「で、勝負しろって何で勝負するんだ?」

「ふ、やつと聞いてくれたか。勝負の内容は・・・鬼ごっこだあああああー！」

なぜ、こじつはこんなに走れるんだー?
俺は、もう走りたくないのにー

「却下だーせめてほかのにしてくれ」

「ルールは簡単。水野を妬ましいと思った人が水野を追いかけてフルボッコにできる多対一の鬼ごっこだ。いいな、よーい・・・」

RETURNS - PARTY!!!

「話聞けよ！？ちくしょう！なんで、こんな展開に・・・！バカテスの明久の苦労がよくわかるぜ・・・！」

「アホな」とやつとらんとはよ、教室入れ！お前ら！」

・・・・・

「ユーツシャーー！なぜかは、知らんが生き残つたーー！」
ぐ、白石めーぞまあ！（笑）

「アーリア、アーリアの魔女は誰のせいだ？」

「水野のせいです！」

「よし、水野。後で反省文な

「え、俺！？ち、違いますよ先生…これは、全部白石のせいです…」

「はいはい、反省文書いた後で聞いたるから教室はよ入れ

「俺じゃないのに…？しかも反省文書いた後で聞くつて意味無いじ
やないですか！？」

・・・・・

こなた side

やつと私の出番…！

にしても、優希くんも不幸だね
まるで、どつかの主人公みたい…あれ？ってことは、
フラグメーカーになるのかな？

「お、こなた。優希くん帰つてきたみたいよ

かがみが見てみると、優希くんがゆつくつこのまつこ
えていた。

「おーい、優希くん！大丈夫？」

「ぐす・・・うわーん！…」なた！かがみ・つかさ・みゆき・聞いてくれよ、黒井先生がひどいんだよ…（涙）

俺何にもしてないのに反省文書がされるし、書くことあつませんつて言つたり、課題まで出されたんだぜ…ひどくね…？」

「あつやつや？取つ敢えず優希へと、おひつー。」

「あなたは、一体何やつてるのよ？。」

「あはは、お姉ちゃんそれはね～すこちやんがセバスチャンに追いかかられて、黒井先生に怒られたやつたの～」

「・・・『おさ、つかれ。えーと、みゆき』といふことへ。」

「つまり、えーと、セバスチャンが優希さんに勝負をもつてしまい、それが原因で黒井先生に怒られて優希さんが反省文を書いたところです。」

「みゆき、詳しい説明あつがとつ」

「」なつやん…お姉ちゃんが…（涙）

「つ、つかさ大丈夫だから！つかさの説明はつかさらしかったから！」

なんか慰めてばっかりだね～、今回の私（一人一人）

「誰か俺も慰めてくれよ！？」

「お疲れ様です。優希さん」

「ああ！みゆき、ありがとう（涙）俺の天使と呼ばせて・・・がっ！」

「む？ああ、そういう事。

私とかがみで同時に攻撃しちゃったんだね。

「あんま調子のるんじゃないわよ、優希くん？」

「そうだよ、優希くん。かがみの言つとおりだよ？」

「えーと、何一人ともその後ろに見える黒いオーラみたいなの！？怖いから！分かった、何か言つこと一つ聞きますから許してください！こなた様！かがみ様！」

「えへへ…どうする、こなた？」

「かがみ、ううじょひ。・・・・・・・

「ああ、いいわね、それ（笑）」

かがみが「なたの話を聞いて嫌な笑いを浮かべていた…
・ 一体何されるんだ、俺！？」

「じゃあ、優希くん？今日、優希くん家に遊びに行つてもいい？」

・・・・・・・・・

「頼む…それだけは止めてくれー一家だけはダメなんだー！」

「あのー、泉さん？優希さんが「これだけ嫌がつてるので止めたまう
が…・・・」

「何かある工違いないよ、みんなおひさーいつやあもひ行くしかない
ー」

「…」

こなた達にも、言わなくひやいけないのか・・・
俺の過去の事を・・・

第11話 白・・・白・・セバスチャン！（後書き）

こなた「こなたです。

優希くんの家には、何があるのかな？
もしかしたら、私が買い忘れたグッズとかかも！

次回！失った宝！
ん？グッズ無くしちゃたのかな？

第1-2話 失った記憶

・・・放課後にて

・・・放課後になってしまった。

家にこなた達を入れたら、マズイ事に・・・
だがっ！今の俺は少し違うつ！

説明しよう！とか言う人が俺を説明するぐらいイイ作戦を考えたんだ！

まず、トイレに行くとかなんとか言ってあとは、ともかく逃げる！よし、完璧だ！
作戦が決まつたらさっそく・・・

「あいたたた〜？ヤバイ、腹痛いからトイレ行つてくるから〜（棒
読み」

「え？すいちゃん、大丈夫？」

「ん？優希くん、ま・さ・か・演技じゃないよね〜？」

ふ、そういう反撃は読めてたぜつ！

「なわけないだろ？ そういうことだから、待つてくれー」

・・・・・

ふう、明日怒られるけどこれだけは知られたくないんだ！
というわけで、鍵開けてやつさと入るわ。
ガチャっとただいま。

「さて、何しよう？」

「　「　「　お邪魔しまーす」　「　「

「ああ、入れはい・・・はいっー？」

なんでここにこなた達がいるんだ！？
はー？ まさか、あとつけてたのってこなた達だったのか！？

「まさか、泉さんの言つたとつだったとま・・・」

「ねー、すいかやさひどこよ~約束は守らなきゃダメだよ~?」

「優希くん、覚悟はできてるよね?」

「アハッ ばれてたかく、でもかがみん手加減無しだよ」

「な、ちよ、かがみやめ・・・・」ああー。」

•
•
•
•
•
•
•

「はっ！？ここはだれ？わたしはどこ？」

「はい、ベタなネタはいいから、優希くん言つひとみ？」

「痛いだろー？もつちゅうと女子っぽくしな」そりじゃなこでしょ
！」・・・もうここので許してへだせ、こひだせ様！」

「ヒロはフラグ構築の為のガマンだよー優希へこー！」

・・・・・

「といふで、優希さん？あの写真に写つてこむのは～」

「・・・・俺の母さんと父さんだとゆつ」

「え？ すこやかん、それってどうこいつ」と。

「信じてもうえないかもしないけど、俺には・・・記憶が無いん
だ。」「

「記憶が無いって・・・じつはなの？」

「それは・・・俺も知らないんだ。」

「優希くん・・・記憶は戻らないの?」

「うーーーそりゃ戻せるなら、俺だつて戻したいさーーーでもな、怖いんだよー記憶が戻つたらーーー自分が自分じゃなくなるような気がして・・・今ここに生きてる俺を・・・偽者だと思いつうでーーーだつてそうだろーーーここにいるのは、本当の俺じゃないんだからーーー」

言葉を言ひきる前から、涙が止まらなかつた。
下を向いてると、かがみがこっちに来て・・・

パチン!!

「・・・つー?」

「私達が今まで一緒に過ごしててきた優希くんが偽者?・・・ふざけないでよーー優希くんは私達と過ごして楽しくなかつたのー?時間の無駄だつたのー?」

「せうだよ、かがみの言つとおりだよー私たちが一緒に過ごした優希くんは決して偽者なんかじゃないよーー優希くん本人だよー」

「すいちゃんは偽者なんかじゃないよー記憶が無くなつたって、すいやんはすいちゃんだよー」

「優希さん、お願ひですから、自分が偽者だなんて思わないでくださいー！私達と過ごした時間・・・少しですけど、意味の無いものでは無かつたはずですよ？」

みんな、涙を流してまで説得してくれた。

こんな俺でも、俺でいいのか？

俺はみんなの顔を今は、まともに見れないけどこれだけは言わなくちゃ・・・

「ほんなん俺を認めてくれて・・・ありがど？・・・！」

・・・もう絶対に俺は俺ん偽者だなんて思わない！

いつか、記憶が戻つても・・・

偽者だなんて思

われても・・・

今ここののは、まあも無い・・・俺だ！

第1-2話　　失つた記憶　（後書き）

しつかり書けたか心配ですが、伝わったのかな～？

今日は、キャラ無しだよ（〃〃・）

自分の思いを伝えた優希、優希の思いを受け入れたこなた達！
じーかい！新たな宝！お楽しみに！

第1-3話 みんなで「J」飯ー（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

「俺には記憶が無いんだ・・・」

「私達と過ごした時間は、優希くんにとって無駄だったのー?」

「ありがど?・・・!」

仮面ライダー風にやつてみました(笑)

では、本編をどうぞ!

第1-3話 みんなで「」飯！-

ん・・・

寝ひやつたのか、俺？

でもなんかスッキリした！いや、肩の荷が降りた？まあ、ピッち
でもいいや・・・やういや、こなた達は？なんか聞こえるなあ～・・・
・

『・・・・・ビ』・・・・・あ・・・・・?』

一階か？別に発見されても困るものは・・・ヤバイ！？

そういうや昨日買った本がある・・・

発見されてたまるかあー！？

うおおおおお、つと階段を急いで登り自分の部屋を開ける！

「こなたー！かがみー！つかさー！みゆきー！人の部屋で何やつて
んだあああああー！？」

ビクツー！と、みんなが跳ねた

俺はとこうと、笑顔のまま・・・

「勝手に俺の部屋をガサ入れするなあー！？」

「や、やあー優希くん。起きた？」

「よ、よかつたわね、何も無くて」

「みゆめとつかせ向じてたんだ?」

「私達はお姉ちゃんといながちさんを止めみつけたんだみ?ね?
ゆきひかわん~。」

「え、ええ、ですが・・・その・・・なんといこまじゅか?泉さ
んが・・・」

「ん?こなたが何かしたのか?」

「えつと、男の人のロマンを見つけてしまったところか・・・泉さ
ん~。「メンなれこ~」

「ああーーみゆめわん、それ言つちゃダメだよーーあと、置いてか
ないで~。」

「つかれわ、でてたほづがいいだ?」

「えー?・・・お姉ちゃん、いながちさん。」

「ちょっとつかさー？そんな人が死ぬのを見送る顔しないでよー？別に死ぬわけ……ない……でしょ」

「ああーーーつかさままでーーー？オンドウルウラギッタンティスカーーーー？」

「こなた、かがみ。少し頭、冷やそうか……」

・・・三十分後

「優希くん・・・説教で三十分もヒドイことを・・・あうー（丁
^ T）」

「こなた、もう優希くんにイタズラは止めましょ・・・」

「つかさ、みゆき。待たせて悪かったな。もう結構遅いし・・・帰つたほうがいいんじゃないかな？」

「あ、それなら大丈夫）。お母さんに今日食べて帰るって電話、も

うしたから～

「そうか、ならだいじょ・・・・つて、え！？まさか俺の家で！？」

「そういう事なのでお願ひしますね、優希さん。材料はもうつかさんと買つたので大丈夫です。」

「仕事早っ！？それなら、ダメとか言えねえじゃん！
諦めるか・・・えっと、この材料は・・・カレー？」

「うん！カレーならみんな食べれるでしょ？それとも優希くん、カレー嫌いだった？」

「いや！大好き！早く作ろうぜ！」

・・・・・

「すいちゃん～、カレーのルーって何処にあるの？」

「ん？そここの棚の下のほうにないか？というか、材料買つたんじやなかつたのか？」

「あ～、そ、それはね、カレーのルーだけ買い忘れちゃつたの

「なあ、こなた。つかさつて、ドジっ子なのに料理が本物にできた
り、慣れてる感じがするんだけど・・・やっぱり最強のドジっぷり
だけは見せてくれるんだな~」

「そだよーでもね、優希くん！まだこの中に他の物は完璧！でも、料理だけはできない！しかも、影でしつかり努力してるのを敢えてさらけ出す人物がいるのだよーその名は・・・」

「余計な」と言わんでもいい。(『ハッ!』)

「ナニカ？」

「はい、できたから早く食べましょ。」

「「「 いたださまゆ」」」

「いただきますー。(トコロ風)」

モード、一〇・

「へー、いまこー……なんだ」「れー…」「えい!! やつたの」「うわなむる

だ
！
？

「つかれ、」れどりやつたんだー。レシピ教えてくれー。」

「えー? 私は、普通に作っただけだよー?」なにかが隠し味に何か入れたと思つからだぶんその隠し味のおかげだと思つよ~。」

「ふつふつふつ、私が入れた隠し味は・・・・・愛だよー。」

「は? なんだつて?」

「だから、愛だよー。愛」

じゅうじゅう返事を返せばいいんだ・・・?

あ、愛の力か~確かに最高のスペイスつていひべりいだし
な~つて返せばいいのか?

「泉さん、愛をひやつて料理したんですか?」

「あはは、『冗談だよみゆきさん』。本当は、煮込むときひやつとグ
イグイつとやつただけだよ。」

なんだ嘘かよー? ちよつと本物かと思つたのこー。

…………

「あ、もうこんな時間だ～。さうそひ帰りなきゃ～

「ん？ なら、途中まで送るか

…………

「じゃ、私達いつだからそれじゃー。」

「すこちかん～こなちかん～ゆきひさんまたね～」

「私もーーで失礼します。それでは優希さん、泉さんを送つてあげ
てくださいね」

…………

「それじゃ優希くんー私もそひひばこばい～

「あ、こなたーちよつとまつてくれー。」

「ん? どうしたの?」

「なんで今日は、俺の家に来たいなんて言つたんだ?」

「う・・・なんでこなたとかがみは今日俺の家に来るなんて考えたのか分からなかつた・・・もしや!」

俺も主人公達の階段を登りだしたつてことか!?

「なんだ~そななこと? 決まつてゐるじやん? ・・・もつと優希くんのこと知りたかつたからだよ・・・」

「へ? 今なんて・・・」

「優希くん! またね~」

「こなたは最後になんて言つたんだ?」

「あ、いいや。早く家に帰つて勉強でも・・・

なんか忘れてる気がする・・・はて? なんだつけな?」

第1-3話 みんなで「」飯！（後書き）

かがみ「かがみです！なによ、こなたは最後のほうで優希くんとい
い感じになつてゐるし、料理の腕も見せつけてるし・・・私の得意な
ことでこなたに勝てるかしら？・・・はつ！？い、今言つたこと
は優希くんにはヒミツだからね！？」

次回！再びの出会い！

・・・もつー

第1-4話

再びの出張ごー（前書き）

これまでの忘れられない宝物は！

・・・・・

特になあーしー？ダメじゃん！？

たぶん、一番短いと 思います！
では、本編をどうぞ！

「ほ～う、水野……？いい度胸しとるな～？」うちが出した課題をやつてないわ、あげくの果てに遅刻してくるわ、授業中に寝る？・・・・面白いなあ～、桜庭先生？」

「確かに黒井先生の言つ通りですな。私の授業中は水野のせいで危うく大事故になるところでしたよ。」

「さすがにそろそろしつかり教えたらんとなあ～？水野、課題一倍と拳で教える・・・・どっちがええか選ばせたろ？」

「先生っ！その選択肢は教師として、人としておかしいです！」

「なら、水野。しつかり私たちが納得できる理由を言つてみろ？」

「理由はですね、昨日モンハン3rdやつてですね？金レウスと銀レイア狩りに行つたんですよ？そしたらあいづらヒドインですよ！一発炎もつて、あ～火傷めんじくさ～つて思つて立ち上がるうとした瞬間、もう一発炎くらつたんですよ！一回目は、毒で死ぬし・・・三回目は、壁際に追い詰められて突進の連続ですよ！？」

「あー、そりゃキツイなあ」

「でしょーひー？朝までやつても倒せないんですよ！」「で、やつとつき倒したんですよ！いやー、なんか氣分イイですね！一方的に切りまくると……あ」

「水野？」「閉じて歯あくいしばつとたほづがええぞ。」

「ちよつ、先生つ！冗談です！学校までPURA持つてきてるわけ……」「黒井先生、水野のバツクからPURAができましたよ」……（涙）

「おつりやー。」

「がふつ……馬鹿な……威力が前とちがう……バタッ」

「一回は、手加減する必要ないやろ。」

・・・・・

あれ？知らない天井だ……！」は……ビリだ？
保健室かな？ベットもあるしつ。

「目が覚めました？水野くん？」

「はい……えっと、天原先生なんで俺は保健室に？」

「ひか……桜庭先生から水野くんが頭を打つて倒れた……と、

聞いてますが、大丈夫でしたか？」

あの人は・・・！体罰をもみ消すなんて・・・そんなのありますか！？

「あの・・・失礼します。体調が悪いので、休ませてもらつても・・・あれ？水野さん！？」

「あれ？小早川さん！？どうしてここに！？高校生だったの！？」

「あつー、水野さんもやつぱり私が高校生つて思つてなかつたんですね・・・私は、ただ人よりちつちゃいだけですよー！」

「「」、「めん」「めん・・・それよりも、小早川さん大丈夫？」

「あ、そうでした。天原先生、ベットを借りてもいいですか？」

「小早川さん、このベットを使ってください」

「にしても、水野くんと小早川さんが知り合いでしたか？」

「いや～、前に色々あつたんですよ・・・じゃ、そろそろ帰りますね？失礼しました。」

「今度は、課題忘れちやダメですよ？」

本当の理由、聞いてんじやん！？

にしても、まさか小早川さんが高校生だったとは・・・ん？高校生？

・・・・

可愛いすぎるだろオオオオオオオオオオオオオオ！

バカな・・・！こんなことがあつていいのか・・・！

偶然助けた女の子が美少女で、しかもロリータ！

もう、フラグ立つたろ！これ！

そういえば、こなた達は何処行つたんだ？

第1-4話

再びの出番つい（後書き）

つかせ「つかせです。次回予告しか出番がないなんて～あつ～（涙）
本編のほうでもでたかったよ～
次回！緑色の王子（？）！お楽しみに～

第1-5話 緑色のクールな王子(?)（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

「二回目は壁際に追い込まれて、突進の連續ですよー。」

「一回目は、手加減する必要ないやろ?」

「私は、ただ人よりちつちやいだけですよー。」

では、本編をどうぞ!..

第15話 緑色のクールな王子(?)

みなみ side

・・・ ゆたかの具合が急に悪くなり、保健室につっこ行こう
としたけど、大丈夫と言われた・・・
・・・ でも、やっぱり心配になつて来てしまつた・・・ 大丈
夫かな？ ゆたか？

・・・ ん？ 保健室から誰かでてきた・・・ あれは・・・ !
前にゆたかを連れて歩いてた人だ！
・・・ どうして保健室から？
・・・ まさかっ！ ? ? ? 一応聞いてみよう

「・・・あの・・・水野さんですかね？」

「えっと、・・・あー前に小早川さんを任せちゃつた人！ ? 「ごめん
ね？ いきなりあんな」と言ひちやつて・・・ 小早川さんなら、中に
いるよ」

・・・ あ、そういうえば前に勘違いしちやつたんだ・・・
・・・ だつたら、謝らなくちゃ・・・

「・・・前は、勘違いして」「めんなさい」

「いや、あの時は俺のまづが悪いぞ。通つたのが君でよかつたよ・・・
・知つてるかも知れないけど、俺水野優希！ 改めてよろしく！」

「…………岩崎みなみです。よろしくお願ひします……」

「それじゃあ、小早川さんによろしく。またね、岩崎さん……」

「…………男の子みたいな人だつたな……」

「…………でも、なんだか前にもあつたよつた気がある……」

「失礼しました……あれ? みなみちゃん?」

「…………あ、ゆたか大丈夫だつた……?」

「もうみんなちやんまدد~。でも、ありがとうね、みなみちゃん!」

「…………うん、じゃあ帰らうか……ゆたか」

「…………」

「…………ですか? みなみちゃんも優希さんに会つましたか……どうでした? 楽しい人ではありますんでした?」

「…………優しい人でした……」

「…………みゆきさんとゆかりさんが遊びに来てたので、みゆきさんに今日水野さんに会つたことを言い、水野さんのことを聞いてみた……」

「水野さんは一見優しくて、誰にでも親切な人ですが……いや、これはみなみちゃんが自分で聞いてみるべきことですね。そんなあ

の人だから、泉さんやかがみさんが・・・

・・・み、みゆきさんから何か黒いオーラが・・・一体何があつたんだろう?

・・・それにしても、水野さんの秘密だけが残つた・・・

・・・それが、水野さんが優しい理由なのか・・・それとも・・・

こなた side

あれ? 私、一応主人公だよね?

なんで、一回もでてこなくて、ずっととかがみ達と遊んだり、ネトゲ三昧なんだろうね?あ~あ、優希くんにもうちょっとアタック方法を考えなきや・・・おおつ!?
こ、これは・・・!

第15話 緑色のクールな王子（？）（後書き）

お母さん「お母さんです。

てしましました・・・

「何も言ひませんよ！」

みなみちゃんまで、優希ちゃんと出会つ

次回一「マ」「マ」(= .)
つて、作者さん！？怒りますよ！？

第1-6話　　体育祭！前編（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

・・・・・

あれ？みなみちゃん視点しかないよ・・・？

では、本編をどうぞ！

第1-6話 体育祭ー前編

こなた side

「よつしゅええか、お前りー? 今日は待ちて待った運動会やー。じつかつやつて頑張るよー!」

「はー、先生?」

「なんや? 泉? だるいけんマジメにやりますんー...とか言つたらばんこひつな?」

「へつー。まあか読まれてるとは...。先生、超能力に田覚めました?」

「お前、泉...。本当に単純やなあーお前の考えは...。おー。そいやー。頑張った人には、今回ばい褒美があるでー。」

「先生つー、褒美つて何ですかー? まさか、昨日書いたアレですかー?」

「わあー。ビツヤウナーフ、勝つてからのお楽しみや。高良、礼

「はー。それでは、礼

「あー。ありがと! やりましたー。」

あ～、先生っ！せめて教えてっ！

行つちやたよ・・・もー！？昨日のアレなら絶対勝たなきや・

・！

「こなちゃん？昨日のアレって？」

「それはね・・・・・つてやつなんだよーつかせーだから、がんばろつー！」

「えー！？黒井先生、どうやって手に入れたのー！？」

確かに・・・でも、今はビビりでもイイ！
それだけは、みんなでプレイしなきやー！

「そついえば、泉さん？優希さんはどうじるんですか？」

あれ？本当だ・・・あ、まさかー？

優希 side

ネトゲつて・・・人を廃人にするよな・・・

今日は・・・何かあつた氣がするな・・・はて？何だっけ・

〜〜〜あれ？携帯かあ・・・誰からだよ今いいトコなのに
に・・・

『もしもし〜、優希くん！？今何処！？』

「今～？家ですかとネトゲ三昧中～。」なた～、何で辞めたんだ～？」

『優希くん、今日・・・体育祭だよ～まさか、忘れてた？』

「へ～あ～、まあこ～せ。みひじく～それじ・・・・・

「学年一位だつたらい」褒美があるひじよー

「せひ、ヒーローは遅れて現れるもんだよな～」

『そ、だよ～。また後でね～』

やべえ！？飯用意する時間ねえ！？
途中で買つか！行つてきまーす！

・・・・・・・・

間に合わなかつたつ！もつ始まつてる！？
点数差は・・・まだ、そこまでないな！いける！

「おーい、優希くんー！」ひづりー。

「かがみつたらひんなに優希くんに会つたかのかな～？」

「やかましーーーほり、あんたのでる競技もつ始まるわよ～」

「ぬおつ！？マジですか！？それじゃー一人とも～また後でね～」

「あ、すこひやんだ～！今、来たの？」

「優希さん、おはよび～ぞいます」

「お、つかさとみゆきか？何処行つてたんだ？」

「私は、さつきのはーどん走で転げちゃつたから保健室に行つてたの～」

「私は、黒井先生に今の状態を知らせに行つてました」

「へえ～、今は何処のクラスが一番なんだ？」

「今は、かがみさんのクラスが一番ですよ？」

「え？ そつだつたの、みゆき？ つづきに引き分けぐらいだと思つた
んだけど？」

「ぐ、でもかがみ！俺が来たからにはいつからが本当の勝負だ！」

「あー、優希くん？自分がどの競技にでるか知つてる？」「

え？ 障害物競争だろ？ 何ミリレーだろ？
普通じゃないか？

「あの黒井先生が遅く來た時は、競技内容を変えると言つてしまつて。
・・優希さんの出場する競技はこちらになりました」

「へ？ そつなのか？ どれどれ……嘘だつ！ そんなの嘘だつ！」

第16話　体育祭！前編（後書き）

ゆたか「ゆたかです！高校初めての体育祭、楽しみだな～！」

中学校の時は出れなかつたし・・・

高校では、でてみたいな～

次回？体育祭　中編！またね～！

第17話　体育祭―中編（前書き）

これまでの流れられない宝物は・・・

「優希くん、今日・・・体育祭だよ?」

「さて、ヒーローは遅れて現れるもんだよな?」

「・・・嘘だつー。みんなの嘘だつー。」

では、本編をどうぞ!

第17話　体育祭！中編

「俺がでるのは・・・借り物競争！？」「

「そだよ。でも、何か今年はスペシャルバージョンらしいよ！しかも、全クラス対抗チーム戦だつて！」

「こなたが目をキラキラさせながら言った・・・

あの・・・でるの俺なんだけど・・・といつか何時の間に終わったんだ？」

「こなつたら・・・！」

「こなたっ、お前もでようぜ！そうすれば勝てるつー！」

「はつはつは、優希くん！私はすでに出場がきまつてゐるのだよ！なぜなら、黒井先生から直接頼まれたのだよ！」

「ば、馬鹿な・・・！」

「俺は強制で、こなたは頼まれたなんて・・・！」

「いつもは・・・いや、いつもどうりか？」

「泉さんも、遅刻して黒井先生に言われたんですよ」

「オイ、こなた。全然違つじやないか！？」

「つて、みゆきさん。言つたらダメだよ～」

「はあー、そういうえばチーム戦だつて？何人対何人なんだ？」

「三対二だよお、すこちゃんといなみちゃんとお姉ちゃんで二人だよ
？」

「つかさー？これがクラス対抗戦って」と忘れてない？

「そだねーかがみだけ毎回違うクラスだからねー」

「……こなた？」

「か、かがみ？何かいつもと空氣が違つんですが……すこます
いませんでしたー！？」

あれは、怖いな……

あれ？何か前にもこんな事があつたような……？

ピンポンパンボーン

『クラス対抗チーム戦借り物競争に出場する生徒は直ちにグラウン
ドまで来て下さい。繰り返します……』

「お、そろそろか。こなた行くわー？」

「もう忘れたー」

「……なーたー！…待ちなせー！…」

…………

ザワザワガヤガヤ・・・

「結構いるもんだな」てつくりあんまりないって思つてたのに

「今回だけかもしれないスペシャル企画ですからね、みなさんどんなものか気になりますよね」

結局俺達のクラスのチームは俺、こなた、みゆき、となつた。

クラス委員長と遅刻者が一人いるチームってどうなんだよ？

『それではルールを説明します。これからみなさんのチームリーダーには、この箱からカードを一枚とつてもらいます。そのカードには、借りてくる物が描いてあります・・・ここまでは普通の借り物競争と同じです。違うのは・・・そのカードは様々な課題をクリアしなければもらえません！』

『『『『『借り物競争じゃねえええええええ！』』』』

なんか違うだろ！？この企画！？

そんなこんなで始まった借り物（？）競争！

一体どのクラスが勝つのやら・・・

『あ、忘れてました。校舎全体を使ってるので校舎の中にもありますよ？

あと、一番多くの借り物を持ってきたチームが勝ちです！

『！』

『『『『『広すぎだろ！？あと、もうカード持つてくるだけでいい

じゅんー・つ・『』『』『』

誰が考えたんだよー。この企画ー。?

第17話　体育祭！中編（後書き）

もつ・・・書いていいよね・・・？

優希「ん？何かだす物があつたのか？」

優希の・・・女装シーン！！

優希「ううううー？まさか、女子に似せるだけじゃなくそのものにしようだと・・・！」

次回はみなさんお待ちかねの優希が女子に！

優希「やめろオオオオオオオオ！」

次回！　体育祭！後編　　お楽しみに！

第18話 体育祭！後編（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

『……………も、力で渡すだけで良くね！？』

今回で体育祭は終わる！

ても
体育祭の後は

本編をどうぞ！！

「何なんだよ、これ！？」

今、俺達の目の前にはもう、何だか・・・即、回れ右！しきくなる光景が広がっていた。

生徒達がここまでヒトいことはなるなんて……

卷之三

それにこいつの白石は・・・何だ、ただの屍か。

「何でだよ！？俺、死んでねえから！？」

「どうか、由加江でいいんだ？お前は、この競技に参加しないだろ？」

「お前らに課題のポイント場所が書いてある紙を持ってきてやつたんだよ。ほら、これが欲しければ謝るんだな、白石様、尻呼ばわりしてすいませんでした、って」

「じゃあなー、ありがとう。こなた、みゆき、行くぞー！」

「あれ！？紙が無い！？ちっくしょオオオオオ！覚えてろよ、水野

•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•

「結構課題があるポイント場所つて……以外にすぐないなあ～」
「んなので勝てるのか？取り敢えず……こなたは体育館のほうを、
みゆきは図書室のほうを頼む」

「わかったよ～、それじゃあね～」

「それでは、水野さん、泉さんまた後で会いましょう」

俺は……部室のほうでも回るかな？

・・・・・

はあー、こんだけやつてやつと一枚目か～

一枚目は空手部のやつを三人倒す、二枚目は何故か軽音
部でカラオケ！目指せ！100点満点！何て言られて、20曲目で
一番の宝物を歌つてやつとクリア。

ところで……あの曲の名前なんだっけ？「うーん、……あ！思
いだした！だんご大家族！あれ、歌ってる子がいたんだよ。

「そこの人、こっち入よ」

「こなたとみゆきはどうぐらいカード集めたかな？
聞いてみるかな？」

「えりとー、じゅうべよー」

「ヒーロンーまだアキラめるのせ、ハヤトよー」「ハロー、ゲームみたいに・・・」

「おねー!パーティ、それナイスアイデア!うとなれ!まわりやく・・・おつやース!」

「ぐえーー!ふり、な、何しやがるー?」

「アナタが!!てみぬフコでトオロイガモリとしたから!トーゆーす!」

「ウチの課題クリアしてくださこスよー、だれもやつてくれないんすよー」

「当たり前だろー?だつて!れ・・・」

『コスプレー女装嫁コントストなにて誰がやるんだよー?』

「ええーー!男子が恥ずかしがりながらやる!のコトイベントが一番ツスよー?」

「オーノー!ジンセイをハンブンベリコンソしてまーす!~」

「「みんなあなたは」」「ヤヒヤのぐれですかー」「やのぐれ?スー」

な、何なんだ・・・この子達・・・！
・・・って、やめろー引つ張るなー？

俺は女装なんかしたくないんだ！？

「そんな！？もったいないっスよ！？女の子みたいな顔してるの
！？」

「ジブンのアラたなカノウセイにキヅクベキです！ネコ///に、ス
クミズ！メイドにナースにセーラーふく！どれをとってもダイジョ
ーブです！ソーゾーしてみてクダセー！」

ネコ///装備！スク水装着！そんな美少女の顔は・・・

「やめろオオオオオオオオオオオオオオ！？」

・・・・・・

「こなた、どうだった・・・？」

「さすがにキツイね〜、一枚しか手に入らないよ

俺達のチームはこれで四枚！

絶対に勝つなら六枚は欲しいな・・・

「みゆきは？どうだった？」

みゆきが一枚以上とつていてくれたら・・・この勝負、イ
ケる！

「私は、四枚です。」

「「何でそんなにできんのー!?」」

「「えー、これはですね~科学部の理科の問題とかの勉強などでしたので~昨日、予習したところばかりでしたので~(汗)」」

もう、凄いっす!

・・・・・・・・・

『えー、競技の結果は・・・泉ーなたさんー!高良みゆきさん!水野優希くんー』の三人のチーム・・・』

よひじゅーーーーの勝負、もうひつたーー!

『・・・日下部みさおさん!峰岸あやのさんー柊かがみさんーのチームですーお疲れ様でした!』

え・・・?それだけ・・・?

ふざけんなよー?がんばったのに、なんもナシ?それは、ひどすぎだらー!?

『両チームリーダーには、各クラスへの賞品が贈られますー。』

何があるんじやん~驚かせれなよーかわと
くれーー!?

「優希くん！ それ開けてみて！ そつちま、なにが入ってる…？」

かがみに言われたとつい見てみると… 僕のまつまつと…
な、何だってー！？

第18話 体育祭！後編（後書き）

まず、ひとつ…

遅れてしませんでした！！

いやでも、やつらは突然くるんです！

防御不可なんです！（ゴンツ…！

じ、次回、未定…ガクツ

かがみ「え！？決まってないの！？」

特別編

「ヨーヨー」と云ふば・・・（記書セ）

やつてみたかった、特別編！

そんな今日が、七四七四一といひとま誰の誕生日でしょ、ハ。

わいわい、そんな特別編ですが、ハーベー。

「ねえ、優希くん? 今日は、何日でじょう?」

こなたに簡単な質問をされた。はて? 何日だつたけなあ……
・あ、思い出した!

「七月七日だ! ……ん?でも、なんで聞いたんだ? 何かあつたか
?」

「はあ~、優希くん? 七月七日といえれば……ってならない?」

「うへん……せつ! ? そういうえばアレの日か!
あれは忘れちやいけないな! あぶない、あぶない……

「今日配信予定のあの装備だろ! ? いやー、やつぱりあの彦星、織
姫装備はプレイヤーとして手に入れとかなきやな!」

「……優希くん、ワザとやつてない? そこまでいけば分かるでし
ょ! ? 今日は七夕だよ! ? 年に一度しかない七夕だよ! ?」

あ、七夕のことか。でも、何で七夕の事でこなたは熱くな
つてんだ?

まさか、まだなんかあるのか? 例えば……

「誰かの誕生日とかか? そんなやついたら、めでたいよな~。七夕
に誕生日なんて……」「

「めでたくて悪かったわね！」

「うおっ！？びっくりした！あの～かがみ様？も、もしかして今日は、かがみ様の誕生日でございましたか？」

「やつと云つたよ～、ここまでくるのにどれだけ掛かる事やら…。
・・・

「よし…それならうつそく…・・・

「ちよ、ちよと優希くん！？いきなりビビり行くのよー。」

「ちよと用事ができたんだ！後で、電話するからー。」

・・・・・・・・・

さて、何故俺がでたのかお分かりだろつか？

もちろん、かがみの誕生日プレゼントを選びに行く為だー！
問題はどんなにするかだけど…。
うーん…・・・かがみが好きそうな物…・・・何だらなー？

・・・・・・・

や、やつと決ました…・・・

あとはこれを…・・ん？メールだ。誰から…・・・あ。

『そろそろプレゼント一つ決まったと思うけど、つかさとがみは双子だよ？私の言つこと、分かるよね？プレゼントは一ついるんだよ～あと、かがみの家でパーティーだからね～、早めに決めないと間に合わないかもよ～？』

「あなたさん・・・！それはマジっすか・・・！
時間は・・・ヤヴァイ！早く選ばないと・・・！」

・・・・・・・・・・

「ま、間に合つた・・・わけないだろ～。
かがみ達の家知らねーーー！？どうしるといー？」

「あーおーい、すいちゃんー！」ひちだよ～」

「おー、つかさか。ちょっと用があるんだけど・・・」

「え？なーに？いたつー？すいちゃん、なんで『ゴミ箱』するの？」

「俺が恥ずかしいからだよ！？頼むから、そんな大声で言わないでくれー！」

「うー（^_^）分かつたよ～」

「取り敢えず早く入るうぜ～つかれた～」

「あー、こっちだよー。そっちに行くと本堂の方に行っちゃうよー。」

「なんか」の歳になるともうあんまり素直に喜べないわね~」

「そう? 私は、やつぱりうれしいけど」

「ん？車の免許でもとるき？」

「いや～、これで堂々とHロゲーでもやるじゃん」

•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•

「ほい、一人とも。プレゼント」

「ありがとうね、優希くん。」

「わあー！すいちゃん、ありがと！開けてみていい？」

「あんたねえ、もうたのをすぐ開けちゃ悪いでしょ」

えへへ、たゞて氣にならぬにて……」

「開けてみてくれよ、喜んでくれるかな～ってがんばって考えたん

だぜ？

「ん~と、これは・・・ネックレス?青色の」

「私も・・・ネックレス?でも、緑色だよ?」

「それの色が違うのはな・・・彦星と織姫。一人がいつまでも・・・いつまでも離れていても、いつかまた会えるようになつて印なんだけどな・・・実は続きがあるんだよ」

「へへ、どんな続きなの？」

「それはな、未来でも会えるように・・・今度は、ずっと一緒に笑えるようにって思いもあるんだ。なんでこのネックレスを買ったかは・・・やっぱりいつまでも一緒に笑い合えるようにって証だと俺は思うかな~」

「そうか、みんなの大切な証なんだね、大切にしなきゃ！」

「私は、これからもずっと笑いえるようにってどこがいいわね～まあ、ありがとね、大事にするわ。」

• • • • •

まあ、最後はやつぱり・・・

「かがみ!つかさ!誕生日おめでとう!」

こんな感じでらき すたキャラの誕生日は祝つていきたいと想いま
す！

優希「え！？俺は！？俺の誕生日は！？」

では、また次回で！

優希「スルーしないでくれよ！？」

スタッフ「あ、もう終わりましたよ？」

優希「理不尽だあーー！」

第19話　体育祭？終わるよ？（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

だんご大家族スルーされる！？

では、本編をどうぞ

第19話 体育祭？終わるよ？

あれだけ大変だった体育祭は終わった・・・
特にあの借り物競争はだるかつた・・・
最後がああなるなんて・・・
けどな誰も思わないだろ?・・・まだ、体育祭の続きがあ
るなんて・・・!

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

「優希くん！そつちには、何が入ってる！？」

「ん? こつちには・・・は? 何も入つてねえ――! ?」

「あー、それについてはウチが説明したるわ。・・・ゴホン、確かにウチはがんばった人にはご褒美があるとは言った・・・けどな・・・二クラスぶんは用意してない！-！」

「な、何だつて――――――!?」

これから大人つてやつは・・・！

約束を守らないんだ！そんなんだから・・・

「三十路超えるんだよ・・・（ボソッ）」

「・・・・・・・せつやー・・・（ヒュー・・・・パキュ・・・）

「ぎやあああああー？音が・・・人体から聞こえるはずない音があーーー？」

「何でこんなに離れてるのに、俺の鼻にマイクを当たられるんだ！？」

人間技じゃないでしょー？

「せやから、賞品についてはまた次の勝負が終わってからや！みんな、今日はお疲れさん！ちなみにあの競技を考えたのは水野やー！」

へ？俺あんなの考えたっけ？

パキュ・・・

（）で、俺の意識が消失した・・・

・・・・・・・・・

「で、かがみ。あれから何か黒井先生に言われたか？」

俺は、こなたとみゆきと一緒にかがみのクラスに聞きに行くことにした

「いや、全然。あれから何の音沙汰もなしよ。でも、楽しかったし賞品はべつに無しでもいいけどね?」

「えー、かがみん。本当は何か欲しい仕方なこへせこへ。もひー シンドレなんだからー!」

「やがましこつー・シンドレー・」

「おこつー・おびつトー!」

「誰だ!? 新しいキャラか! ?

後ろを見てみると男っぽい女子がいた・・・えっと、誰?

「あー、えつと・・・どちら様だったつけ?」

「おま・・・」の膚血脉図紹介しただりー! ? 桜のクラスの田下部みわおだりー! ? カーー!」

ふーん、田下部みわおさんね~

あーかがみのチームにいた人だつけー! ?
にしてもバツて何なんだ?

「田下部みわおさん、バツて何なんだ?」

「聞いてみると田下部みわおじーー! ? ジーを見て・・・

「格一、おびつトーー! ? こつだれ?」

「ああ、やういえば田下部は初めてよね。彼は、水野優希くん。つ

かさやみゆきと回じクラスの男の子よ

「なあーちびっ子一格が紹介する時の顔がわたしらを紹介する時と全然違うんだってヴァ～」

「私もそれ思つてたよ～かがみつてやつぱり・・・」

「「（ニマニマ）あれだよね～」」

「何だよー?」ち見んなー?」

「ひこひの見てるとやっぱり・・・

「（ニマニマ）乗らないとな～（パキュ！）は、鼻が・・・!本日一度田の聞こえちゃいけない音がー!?何で俺だけ!?俺はただ乗るのがテフオだと思つただけなのにー!」

「お前は、なお悪いわ!」

「お前らは、隣のクラスまで来て何やつとるんだ

「あー桜庭先生、こんちや～」

「全く・・・ほれ、水野。黒井先生から決着のつけかたはRPGオノライensex

「ゲームで決着ですか!? 桜庭先生それは向こうのクラスが有利すぎますよー? あっちにほ、体育祭までずっとゲームしてたバカがいるんですよー?」

あれ？目が滲んで見えないや・・・
なつ、泣いて無いんだからねー？本当だよー？

「クラス対クラス。全員なら、何人か得意なのがいるだろ？」

「「「「何でそれを全員でやるのー？」」」」

「んだけ遊びたいんだ、あの先生！？」
そこまでクラス対クラスにこだわるなよ！」

第19話　体育祭？終わるよ？（後書き）

みさお「みさおだつてヴァ！」

何だよーあの水野つてやつ・・・

柊はウチんだ！

次回！ラッキースターユニアーバース！
ゲームかあー、負けねえってヴァー！

第20話 ラッキースターユニバース！（前書き）

緑の森 そびえる城

そんな中、一人の少年が走りまわっていた。

その後ろには、仲間がいっぱい

そんな世界の名前は、ラッキースターユニバース

ひとつゲームが交わる時、物語は始まる！（笑）

第20話 ラッキースターユニバース！

「もういやだあーーー？なんでーー？どうして、こんな始まり方ばっかりなの！？」

俺はただ宝箱ばかり開けてただけなのにー。

なんでこんなに敵がいるんだ！？

あー、もうしつけー！こうなつたら・・・やるしかないか！

そう言いつつ俺は、背中の大剣を手に取る・・・

「せいやあーーー！」

後ろにいた敵をズバツッと斬る！すると、剣から衝撃波みたいなものがでていき後ろのほうにいた敵を切り裂いていった。本当に便利だなーこの剣。ま、俺はこのゲームではそうそう負けないだろ・・・なぜかって？それはもちろん・・・このゲームやってたからだ！！

・・・・・・・

ふー、疲れた～やっぱり倒すのは疲れるな・・・

確か、この森を抜ければいいんだよな？・・・って、オイ
い！？何だよ、これ！？

森を抜けた先で俺が見たのは、クラスメイトそっくりにデ
フォルメされたキャラ達が倒れてる光景だった・・・！

「・・・つー白石ーー！こで何があつた！？」

「う・・・水野か？・・・へへ、いつもお前を追いかけ回してるのは
このザガーマとはな・・・水野、一つだけ言つてもいいか？」

「ああ！頼む！お前達の仇は俺がとるから！」

「俺・・・みゅせわんが好きなんだ・・・」

今、かんけいねえだろー！

もつ、知るか！つと言わんばかりに白石（だつた物）にハ
ツ当たりしようとした時、いきなりクナイが飛んできた！？あぶな
つ！後ろを見てみるとウサ耳にブルマという完全装備とイタチみた
いなのとおつとつした感じのパンダがいた・・・

「誰だつ！？危ないだろ！？」

「いや、あんた達のクラス全員倒さなきゃいけないし・・・仕方な
いでしょ！」

「あと、何人残ってるんだつてヴァ～

「柊ひやん、みさひやん。あと、ちよつとがんばろ～

ちよ・・・まずい、まずい、まずい！

あっちのクラスの主力メンバー全員と戦わなければ行けな
いんだー！？

本当に俺が何をしたとー？

「かがみ、待て！3対1は卑怯とは思わないのか！」

「あんたねえ、自分の装備見てから言つたら？」

「え？こんな装備誰だつて持つてるだろ？」

「LV55以上のボスを三体連續で倒せば手に入るだ？」

「そんなの今日、昨日じゃできる」「いやないんだつて、ヴァーノの卑怯者ー。」

「卑怯？何を言つてるんだ？」

「さすがに、LV差が50もあつたらね・・・。」

「よし、この際言つとこやるー。卑怯、汚いは敗者の戯言だー。」

「あんたは、やつしてゲームになると卑怯な手段でも使つんだ！？」

「終ー、もうそろ戦おひづ〜」

「えつと、水野くん・・・で合つてたかしらっ私は、あんまり戦いたくないんだけど・・・。」

「仕方ないわよ、峰岸。じやあ優希くん・・・いくわよー。」

「えー？ちよ、待つてえー！？」

かがみは、言つた瞬間俺に殴りかかってきた！
速つ！？それ、LV30の攻撃力じゃねえから！？

「くつー！」

剣で防ぐけど、後ろから峰岸さんがスキルを・・・！

「スキル発動っ！みわちゃん、今よー！」

「任せろーー！覚悟しろよな、水野ーー！」

「任せろーー！覚悟しろよな、水野ーー！」

相手を閉じ込めるやつだ！

「おりやーー！」

クナイで切ろうとしたところをカウンター気味に大剣でいな
して、斬った！どうだ！？だてにネトゲ廃人やってないぜ！

「甘いんだってヴァー！」

は！？なんで後ろにいるんだ！？

とにかくこれはヤバイ！よけきれな・・・ぐつ！
わつきの戦いで技使うんじゃなかつた！

「よし、一気に畳み掛けるわよー！」

「ここは逃げるしかないな・・・！」

あれ逃げられねえ！？何だこれー？忍者のスキルか！？

「忍者のスキルはやっぱり便利ね～影踏み・・・だつけ？ま、何は

ともあれ、これで優希くんは離脱ね？

「これで終わりだつて、ヴァ！」

追いこんで逃げられなくして・・・

「おれ、なんじよー！」

「Iの声は・・・Iなたね！？」

「さすが、かがみん。私のことよく分かつてる~」

「うるさい！あと、かがみん詛うな！」

油断したね」かかみ？今だよ！」

こなたがそう言った瞬間、ズバッと俺が作った衝撃波より
大きいのがこっちに飛んで・・・って、俺ごとやるきかあーーー？

ドバーン――――YOU
WIN!

俺（じ）は、やらないでもいいじゃないか・・・！

「私達の負け！？ほかのみんなは！？」

「お前らが水野の相手をしどる間にとっくにゲームオーバーやで？」

「黒井先生！？どうして、ゲームに参加してるんですか？」

「おお、いい質問やー峰岸ーウチはいつ言つたやろ?『クラス対ク
ラスでやるでえー!』って

「それじゃあ、桜庭先生は・・・」

「桜庭先生はめんどくさいんでバスする言うてたで？」

「そんなの無いんだってヴァン！？」

「先生つー賞品はなんですか！？」

「なんで俺は殺されたんだ・・・。
つて、そうじゃない、そうじゃない賞品だ！」

「聞いて驚くなよ～賞品は・・・」

『ワクワクワクワク』

「さつきのゲームでの思い出が君達の賞品や！大事にひとつくんや

「で

「先生！それは、あんまりです！」

俺は何の思い出も無いんだけど！？

アイテムは全部落とすし、かがみ達に倒されかけるし、トドメに黒井先生とこなたには倒されるし・・・イヤな思い出ばっかりだー！？

少しだして体育祭は終わりを告げた・・・

不幸だああああああああー！

第20話 ラッキースターユニバース！（後書き）

早くも、スランプ状態に(Ｔ　＼　Ｔ)

優希「まあ、色々あつたもんね補習とか補習とか補習とか」

くつ！言われたくないことを！

ゴメンなさい！家に帰つても書く気がでませんでした！

次回、7月20日といえば・・・

では、また次回で！

特別編

7月20日とこくは・・・(前書き)

第一回田一・とこくは・とじやくも・本編をどーぞ!

「は？かがみ今、何て言つた？」

「俺たちは、教室であつりがたい授業を終わつてゐる、帰ろうか？つて時にかがみが・・・」

「今日、田下部の誕生日何だけど優希くん達も来ない？お祝いに？」

「田下部つて・・・あの田下部か？ヴァー！って叫つ・・・まあ、特別嫌いって訳じやないけど・・・俺達も行つていののか？」

「一緒にゲームしただけだぞ？」

「みやけちゃんことつて遊んだら、自己紹介したらひみつ友達だから・・あ、峰岸あやのです。ようじへね？」

「柊つかさです。峰岸さん、ようじへね～」

「泉ひなただよ～峰岸さん、ようじへ～」

「水野優希ですか～？」

「わい、そじゅ田下部のところも行つてみるか！」

「柊一、あやのーーーいつこいたのかー？」

来るのかよ！？お前のタイミングの良さで、俺が泣いたつひとつで、セツジヤない！

「田中部——今日、お前の誕生パーティーに俺たちも行っていいか？」

「ちゅうと待てって、ヴァービーしてそなつてるんだって、ヴァー！？」

「こや、俺達も峰岸さんで誘われたばかりで……」

「あやの——ちびっ子達はともかく、何でここまで誘つたんだよ～！（怒は）ウチんだ！絶対に負けねえゼー！」

「……ガーネン！……せつか……悪かったな、じゃあな

「あつー！、優希くん！？」

「あれ？水野、どうしたんだー？」

「ちゅうとみやぢやん……ここ過ぎよ？断わるとしても違つ言い方があつたでじゅー？」

「う……ちゅうと探して来るんだって、ヴァー！」

……………

うへん、水野どこに行つたんだって、ヴァー！

つて、いた！何か持つてゐるナビ・・・今は、エリドモニコ
ゼー

「水野！言ひ方が悪かったつぜ・・・悪かったなー」

「ん？何の話だよ？別にもう終わつただひへはこ、これプレゼント

「あ、あいつがどなー今から、早く帰らなきゃ間にあわねーゼ？」

「よしー行へかーちなみにそのプレゼンの意味は・・・」

「意味何かいいら、いこから早く行へつて、アーバー。」

・・・・・

「みやけやさ、すこしけたと申直つできたの？」

「どうれたナビ・・・そのすこしありて・・・水野のことかー？」

「仲良くなつたら、あだ名とかで呼ぶんじやなかつたの？みやけや
ん？」

「じゃあ、俺せみをぬつて呼ぶかい、好きなよつて墨でこれ

「な、何か照れるぜ～これからは友達とライバルだぜ～」

別にいいんだが・・・何のライバルなんだろ？

・・・・・

じゃあ、最後に・・・

「「「「みさお～、誕生日おめでとう～。」「「「

はい、時間があつませんでした！（涙）

次に繋げれないよ～！

特別編は難しいーーのー言ひ切れるーー

やつぱり話はしっかり考えないとね～キジイよ（。・；

では、また次回で！

第20話　日常・・・アニメじゅなこよー（笑）（前編）

最近、暑くなりましたねー（汗）

学校に行くときとかも、ひどくひどくて・・・

でも、書いてみせりー（＝＝・）ゲンシヒー

あ、でも今回短いやつ！？（＝＝・）

では、本編をどうぞ！

第20話　田舎・・・アニメじゃなこみー（笑）

「こなたー！ 今日のリベンジだつー。」

「ふつふつふ、 優希くん？ 私に勝てるかな？」

「あんたは、俺が倒すんだー！ 今日、こいでのー。」

俺はこなたにゲームで勝負を挑んだ！
なぜかつて？ 最近、負け続きだからだよー！
あと、ちょっとつてところから逆転されるんだよなー
ちなみにゲームは、ガンダムだぜー！

「俺は、いつも通りソードストライクで行へせー。」

「私は、イージスでいいやー。」

「パイロジトはまつキラフだなー。」

「やつぱりアスランでしょーー。」

「

「こなたさんっ！ それほマジっすかー！ ？ イージスで俺と勝負するなんて・・・

はー！ ？ まさか、手加減されてるー！ ？ ？ ？ その余裕いつまで持つかなー。」

手始めに、速攻で行かせてもらひうー！

そう言つた瞬間、俺は一気にこなたの近くに行く！

その間、むちゅくちゅくジームを撃たれるけど気にする必要はないぜ！

「ううやあああああああーーー！」

俺のジームサーベルがこなたのモビルスーツを斬りまくる！
みるみる体力が減つていいくこなたのモビルスーツ・・・あ、

爆発した。

ふ、ははははーこれが、連邦の白い悪魔の力か！

「な、何ですとーー？まさか、一機も倒せずに一機やられるとは・・・
・優希くん、恐ろしい子・・・！」

「ここのまま勝たせてもらひうぜーー！」なた！

「甘じよー優希くん？」

「なー？ライフルだけで何か死んだーー？何でーー？」

「ふつふつふ、戦いはここからだよ、優希くんー！」

「キラあああああーー！」

「アスラあああああああんーー！」

・・・・・・・・・・・・

「なん……だと……」の俺が負けただと……

「あぶなかつた……最後に悪は滅びる！」

「ちょ！？俺は悪かよ！？でも、また勝てなかつたか？」

「お、そういうえば優希くん？みさきちの誕生日プレゼント、何あげたの？」

「ん？唐突だな？俺があげたのは……ブレスレットだよ

「へ～、かがみ達みたいに意味とかあるの？」

「意味か～、確かあの石には……いつまでも、ずっと元氣で大好きな人といふだつたはず……」

「かがみ達の時もだけど、優希くんって……以外にロマンチスト？」

？

「なつ！？……もう、この話は終わりだあ一次は、これだ！」

「え～、まだ聞きたかったのに……えっと、クライマックスヒーローズ？って、さつきから優希くん自分の得意なゲームに持つてない？負けてるけど」

「俺は、ブレイド一撃、こなたもさつと選べよ～

「しょうがないな～負けても知らなによ?」

「まつとけーよし行け! ロイヤルストレー・トフリッシュ・ショ...」

「なんのー...サイー・ゴコラ・ゾウー・カゴーヴ・・・サゴーヴー...」

第20話　田舎・・・マイメロじやなことやー（笑）（後編）

あやの「あやのです。今回ばかりは、出番無しか

すこりやんと歌ひやん、楽しかつた

かな?

次回、全員集合ー誰が集まるのかし

らへ。

やれじゃあ、またね?」

第22話 全員集合！（前書き）

いきなり、本編に飛び入り！

第22話 全員集合！

「あ・・・暑いーーー?」

「ハハヤコで水野ーウチも暑いんやから、がまんせんか!」

「だつて俺の席、田差しが一番酷いんですよー? こいつもは寝ている時間でも、寝れないんですよー?」

「ハハヤコー黙つとけ!」(ヒヨン)

チヨークがおでこーーー? 痛つ!?

何か・・・違う始まり方は無かつたのかよ・・・

・・・・・・・・

かがみ side

「つー、じとがあつたんだよねーすいちゃん痛そうだつたんだよー、お姉ちゃん」

「はー、何やつてんだか・・・あれ? でも、今優希くん居ないわね

?」

「優希さんさ、保健室に行きましたよ?」

「ふーん・・・こなたは？」

まさか優希くんにつれて行ったとかじゃないわよね？

「すいちゃんにつれて行ったと思つたび・・・うだよな、ゆきち
やん？」

「多分そいつだと思いますけど・・・かがみさん？何処に行くんですか？」

「私達も行ってみましょ」

あーつ、ひょくひょく優希くんにつれて行ってるわね・・・
はーっそりじゃない、そりじゃない。

・・・・・・・・・・

優希 side e

おでこ痛～い～

てか何でこなたも来てるんだ？

「え～、だつて優希くん最近主人公補正かかつてきてるし、何かあ
りそつだしね～」

「どこの話だよー？」

「お前らなー、保健室でぐらぐら静かにしたらどうだ?」

「あ、桜庭先生こんちやーどうしたんですか?」

「どうしたも何も・・・サボリに来たに決まってるだろ」

「いや、そんなドヤ顔されても・・・あ、そういえば桜庭先生

「ん? 何だ、水野」

「科学の補題を無にしてください! あんなのムリです!」

「だから、そんな大きい声をだすな! 人が寝てるんだぞ!」

「人が寝てたの! ? 悪いことしたな・・・

「あ、水野。お前が知ってる人だぞ?」

「俺が知ってる人?

みさおか? それとも、あやの?

ちなみにあやのに彼氏がいた事を後で聞いたんだけど、あ

やのでいいらしい

何か自分だけ名前で呼ばれないのはイヤらしい・・・

あ、誰かベッドからしてきた・・・あー

「あれ、水野さん? 何で?」

「小早川さんだったの! ? 「ゴメンね?」 うるさい・・・

「あれ? ゆーちゃん、また気分悪いの?」

「もう大丈夫だよ、お姉ちゃん」

へ! ? 何! ? デモ! ハー!

• • • • • • • • •

えつと、二人の話によると・・・

「なたと小早川さんは従姉妹らしい（へーへー）！」

何ていうミラクル！？

「あー、こいつはゆーちゃんが書いてた人って優希くんのことだつたの？」

「そうだよー！私も、お姉ちゃんと水野さんが友達だったなんてびっくりしたよー」

「…………失礼します・・ゆたか？泉先輩に水野先輩も・・」

「みなんみちゃん、ゴメンね？ 私、もう大丈夫だよ？」

「・・・そう・・よかつた・・」

「みんなみちゃん・・・」

「ゆたか・・・・・

何か・・・とつてもいいモノを見た気がする・・

「ダメっす・・・・・友達をこんな腐った田で見つけやダメっすー!」

「」の声は・・・・・

俺はこの声の奴に会つわけにはいかねえ!?

「悪いな!ちよっと用ができたー!」

「うひゅ・・・・・優希くん!・?何処行くの!・?」

「あーあなたは体育祭の!・?ちよっと絵を書かせて欲しいっす!」

「見つかった!・?捕まるわけにはいかねえんだよー!もうあんなこと
されてたまるか!」

「さつきの田村さんだよね?みなみちゃん?」

「・・・・せうだと想う・・・」

「ひょりんも何やってんだかね~」

・・・・・・・・・

おーあれは、かがみ達!かがみさま~!
助けてくれ~!・・・もしかして、知り合いとかじゃない

よな？

「あれ？ 優希くんに田村さん、どうかしたの？」

今日は・・・いや、今日も不幸だあ！

「おとなしく、書かせてくださいよ~」

ヤバイ、あの目は危険だ！

オタケなら分かる!」てきやああああああ!?

それきり優希の姿を見た者はいなかつた・・・

「勝手に殺すなああああああああああ！」

第22話 全員集合！（後書き）

えっと、遅れた理由はですね・・・（大汗）

バイトが忙しいんです！？

だから、夏休みが終わっても更新が遅れると思いますがお願いします！

では、また次回で！

第23話 ハロオドル！（前書き）

では、本編をどーぞ！

第23話 ノロオドル！

あ、暑い・・・何でこんな日に学校に行かなくちゃいけないんだ・

「先生！俺だけ追試を今受けてもいいですか！？」

「ん? どうかしたのか?」

「高校生最後の夏休みですよー!? 最高の思い出を作らなくちゃいけないんですよー。」

「その前にお前は受験生だろうに……まあ、それはそうだな……

先生が悩んでるー畳み掛けるならーまだー

「先生お願いします！今なら限定物の例の物を渡しますから！」

「…よし、水野以外今から課題を終えたら帰つてもいいぞ」

「つて、何で俺だけが帰れないんですね？」

俺、何か悪いこと言つたか！？

ただ先生が欲しがつてたB-L本をあげようと思つたのに！

もらつた・・・

「せ、このテストが終わったらお前も帰つてもいいから早くやれ

『そ、桜庭先生へ！ありがと！」やれこます！』

さて、さつそく終わらせ……はいー？

先生ーこれ、俺が一番嫌いなトコばっかりのやつじやないですか！？

「氣のせいじゃないか？早くやうないと帰れないぞ？」

なんて汚い方法を・・・！

くそつーこんなの出来るワケ無いじやないか・・・！

・・・・・・・・・

や、やつと終わった・・・

なんだよー科学なんて分かるかあーーー！

まあ、いいや早く帰ろ・・・

『夜更かしが好きだ！邪魔されず戯れていたーいお年頃・・・』

なんだー？こんな曲設定したか！？

まあ、でてみるか・・・ポチッとな

『優希くん、びっくりした？』

「こなか？って、お前だろー？俺の携帯の着信音変えたのーー？」

『あせせ、びっくりしたと黙つていつたつ變えてたんだ～ゴメン』

「はあ～・・・で、何の用だつたんだ？」

『あー、ゴメン。・・・おれちやた』

「うひ、おこ～?意味ねえじゃねえかー?」

『じょーだんだよ～えつとね?今度ね、みんなで海にでもこかない
か～だつて?』

う・・・み・・・?

海つてことはみんな水着だよな・・・?
みゆきとかかがみとかあやのとかの水着姿つて?とか・・・?

・・・・ふつ

なつてしまつた・・か・・・ヒステリアモードこ・・・!

「任せろ、もう準備は終わつた・・・まあ、こいつ行くんだい?姫?」

『そんなヒステリアモードみたいに言われても・・・まだ、田口
は決まって無いんだよね～じゃあ決まったら、また電話するよ～』

「な、こなた!?待て!待つて・・・」

『フツ・・・プーパー・・・』

ヒステリアモードみたいにやるんじゃなかつた～!?

でも、海があー・・・え？ 海・・・？
や、やばい・・・！ 僕、実は・・・

こなた side

ふー、優希くんを誘つたしあとは・・・

『もしもし？ひよつづ』

「あ、ひよりん？ 今度、みんなで海に行くんだがどうす

・・・・・・

よし、ひよりんにも話したし・・・
これで例の計画に実行できる！
・・・何か、前にも私こんなラスボスみたいなことやって
たよね？

第23話 ハロオドル！（後書き）

みんなあー！私に力を分けてくれっ！

優希「元気玉みたいにか？」＼（＝＝；）／

力の分け方は感想をくれる度に増えていくよー

優希「簡単な話感想が欲しいだけだろー！」

がんばつて魔人ブーを倒そうー！」

優希「誰だよ！？魔人ブーって！？」

優希・私「では、また次回でー！」

第24話　　夏だ！海だ！！（前書き）

夏休み　残りちょっとで　じつじゅとー・?・b・y彼方

課題をやらないと成績に響きまくるなんて聞いてないよーー！？

とこつワケで本編をどうやー（涙）

第24話 夏だ！海だ！！

「夏だ！海だ！…といつワケで一人ともお願ひしまーす！」

今日は海に行くのにバッチャリの真夏日和だな…・・・暑い
俺達は、いつものメンバーに小早川さんと若崎さんを加え
た七人で海に行くまでのどしどに乗るかはなしてた時だつた

「よつしゃーーー任せとまーーー」 「ゆー姉さんに任せたまくーーー」

「で、ウチの車に乗るのは誰や？水野、行くか？」

「（先生のせこど）酔こそうなんでやめとまわす

だつて黒井先生の運転だしな
つて先生！？アイアンクローリーは前と後ろからやるさじや
くてですね！？

「かがみ達はどうあるの？..」

「私は成実さんのほうで行いつかん？安全運転だらつ・・・」

「私も成実さんのほうで行いつよ~

「では、私もいきまーすね

ん？何かこなたの目が光つたよつた氣がある・・・氣のせ
いか？

「んじゃー、私はななこ先生のほうで行こうかな

「みなみちゃん！私達も黒井先生の車で行こう！」

小早川さんも若崎さんと一緒に行こうとしているみたいだけど、こなたと小早川さんは成実さんと行こうとしないんだ？

たまには、他の人の運転で行こうとしたのか？

「・・・ゆたか？どうして焦つてるの？」

「お願い・・・！みなみちゃん・・・！」

「・・・うん、わかった。・・・一緒に行こう、ゆたか」

「ありがとう！みなみちゃん！」

何か小早川さんの目が潤んでるように見えた・・・
例えば、人を助けたー！みたいな目をしてたように見えた。
・・・ why?

あ、こなたがグッジョブ！ってやつてる。
このシチュエーションに関してなら確かにグッジョブだ！

「さりば友よ！願わくはまた会えることを・・・！」

「大袈裟ねえ～ちょっと会わないだけじゃない」

「あはは、またね～こなみちゃん。ゆたかちゃんとみなみちゃんも～」

「じゃあ、そろそろ行きますか～みんな、ゆい姉さんについておい

「で～

「ウチらも行くか！みんな準備はええな！」

・・・・・・・・・・

かがみ side

さすが交通安全課だけはあつて乗り心地はいいわね～
優希くんなんか前の席だからって寝ちゃてるし・・・はつ～！
？ち、違つわよ！？これは、その・・・何でも無いわよ！？

「そつにえば、交通安全課でもルールの確認とかするんですか？」

「そ～よ、交通ルールは任せたまへ。・・・あ、追い越し

「へ？」

「このヤロー・・・」

ちよつ！？おーい、交通安全課ー！！

後ろに私達も乗ってるからー？やめてつって、きゃああああ
ー！？

うわつ！？ガードレールきつきつりー？

「仕掛けるポイントは・・・」の先5連続ヘアピンカーブー！！

「はいっ！？何がどうなつてんの！？起きたらいきなりレースの途中で最高の山場っぽいとこ！？」

あ、優希くん起きちゃったんだ・・・さすがにこの運転で寝られないわよね

うてそんなこと考へてる場合じゃなか
曲がり・・・きつた！怖かつた・・・！
レースには勝つたけど・・・

「何なの！」のチョメチョメD的な走りはー！？
「ギヤあああああああーーー（優希）」

• • • • • • • •

こなた side

「なにかやつてね・・・上手だよね、車の運転」

「ええ、そつか?」

「こなたね、本当は車に乗ると酔ひちやうの・・・だからね、酔い止めの薬持つてきたんだけど・・・なないわんの運転だとちつとも気持ち悪くならなかたつよ~」

「ああ？ ついで、 こんな状況でシッ 「ふざける余裕無いわー！」

「お姉ちゃん、酔い止めのお薬ちよーだい？」

「はー、ゆーちゃん。あと、お水」

「ありがとう、お姉ちゃん!」

やつぱりゆーちゃん見ると保護欲といつか、せらなきや
いけないって気持ちになるんだよね~

それはともかく、黒井先生?

「今回私たちが行くのは山じゃなくて海だよ?」

「分かったわ、んなこと!」

今更だけど迂闊だつた・・・!

ゆい姉さんの運転が酷いのは知つてたけど
まさか、黒井先生は方向音痴だつたなんて・・・!

両方ハズレだつたなんて・・・!

今日、本当に海に行けるのかな?

・・・・・・・・

優希 side

カアー、カアー・・・カラスが・・・鳴いてる

今は夕方だし・・・仕方ないんだけどな

こなた達と合流できたのは5時・・・良い子のみんなが帰る

時間だ・・・

こんなことになつた原因の一人は・・・！

「「あははははははははははは～」」

対する俺達の反応は・・・

「「「「「」・・・・・・・・・・（・・〇）」」」

「それで、宿でも探すか？」

「うして、」うなつた・・・・！

俺達の海に行つて遊ぶ為の第一日は、海水浴場に行くまでで終わった・・・

第24話 夏だ！海だ！！（後書き）

優希「おい、彼方？ちよーと話があるんだけどな

何なのよ？人が一生懸命働いてきた後に？

優希「題名と話が全然違うじゃないか！？」

海まで行けなかつたのは私のせいじゃないわよ！

というワケで次回も続きます！

優希「今度はしつかり、夏だ！海だ！！、つていえるんだろうな？」

大丈夫！山だ！海だ！！、これはならないから！
では、また次回で！

第25話 夏だー海だー!! (前書き)

海と優希とエスリー

さて、何でヒステリアモードがあるんだろう?

では、本編をどうぞ

第25話 夏だ！海だ！ハーフ

「うも……優希です……

昼間のせいで、テンションがあがらね

日が覚めたら向だよあのレースは…もう少しさんの車には絶対乗らないっ！

はあ、一人だけ別部屋になるのは仕方ないが……やっぱり寂しいな……

当然ここはパソコンは無いし……やむと無こしもつねる…

「うー何か向こうの部屋から楽しそうな声が聞こえるのに俺は入れないなんて寂しいな……

…………

「ん、何か聞こえる？誰だよ、こんな夜中に……

ふすまから顔を少しだして見てみると、つかさがいた。

って、いちからこんなもんもしてきた？ビームに行くんだろ？

あつはトイレだけ？じゃあ、俺が気にする必要ないな。戻るか

何だ!? さつきまで一人共普通だったのに!?

「あいたん！？ つかわ！？ じうじたー！？ じうおー！？ 何だな！？ れー！？」

一
ス
ケ
キ
王
で
す

「あ!? すいたやうん! ?」

「…つかせ！？怖がったのは解つたから」「ちに飛び込んでくるなー！？」

言つたけど遅かった！つかさに抱きつかれて勢いに耐えきれず床に頭を打つた。痛つー！？でも、何か柔らかい感触が俺の顔に・・・どこのギャルゲーだよ！？

「つかさ！大丈夫だから、どうしてくれ！」

「優希くん……君はどこのギャルバーの主人公かな？まあ、悪いのは私だけど……」「

こなた！？何でこのタイミングで！？

さつきのスケキヨの背が小さかつた気が・・・あれ、こなたかよ

ともかく」の状態はまずい・・・！説明するしか・・・

「つかさ！？大丈・・夫・・・」

「か、かがみつ？いや、これについてはだな・・・（大汗）」

「……こんな真夜中にしかも人気がない通路でつかさの胸に顔を埋めて……ね。優希くん……もう覚悟はできてるわよね？」

「た、助けて！？こなた！？ゆいさん！？つて、何で一人まで俺を見る目に感情がこもってないの！？」

「お姉さん・・・逮捕しちゃうゾ」

「かがみ！ 手加減無しだよ！」

• • • • • • • • • •

あれ・・・ここは・・どこだ・・?

何で海何かに居るんだ俺？確かに…かがみとこなたとゆいさん
に殺られて…それから、どうなつたんだ？

はっ！？まさか、死んだ世界！？天使ちゃんマジ天使！？

・・・最近、頭ヤバイかも・・俺

ん? あんなとこに子供がいる・・・しかも一人で危なくないか?

つて、こけた！？ちょっと溺れてるしヤバイかも！？

「おー！？大丈夫か！？」

いきなりのことビックリしたらしく、なかなか起き上がりたい。

なんとか起き上がれた子供は少し落ち着いたのか俺のまづを見た。
・・は！？

「なー？小さい頃の俺！？」

その子の顔が小さい頃の俺だった！？ビックリだよー！？

俺が手を離したすきに小さい俺は何処かに行こうと走つていった。
・・つて、見てる場合じゃねえだろ！？

「おいーちょっと待つてくれ！」

相手は子供なのに全然追い付けない。むしろ、どんどん離されて
いく・・・

離れて行くたびに周りの景色もどんどん白くなっていく・・・

「待つてくれよー！？・・・俺を一人にしないでくれー！？」

「ここで俺の意識は消失した・・・

・・・・・

「・・・優・・・希・・・・ん

誰かが呼んでる・・・寝てる場合じゃないー!?

「わー!びっくりした~やつす、起きなーいかと思つたよ~

「へ?俺は何処に行つたんだ?」

「?何言つんの?まじないからまさしく起きなそよお

「ほひ、水野先輩。行きますよ~?」

「あ、ああ。じゃあ、行くか!」

何だつたんだ?あの夢は・・・いや、夢じゃない何かは・・・

俺の記憶・・・?小さこ頭こじかの海に行つたことがあるのか?

どうなつてゐるんだ?いつたい、何が起つてゐるんだ?

第25話 夏だ！海だ！（後書き）

優希「つかさの胸の感触・・・」

みんな・・・殺っちゃって・・・

異端審問会「――イヒーサー――！」

優希「あれ！？何でいきなり縛られてんの、俺！？しかも、この臭いガソリンじゃね！？って、火だけは付けちゃいけないから！？止めてえーーー！」

じまくお待ちください（＝＝・）

優希の過去？っぽい話がでてきたね

優希「あれは何だったんだ？」

復活早っ！？まあ、いつか分かる日がくるるよ

次回も続く～海！本当にメンなさい！

では、また次回で！

異端審問会「――水野に関する妬みなどは異端審問会まで――！」

優希「何宣伝してんだ！？お前らーーー！」

第26話 夏だー・海だー・せんつ（前書き）

夏休み・・・終わっちゃったね（涙）

では、本編をどうぞ（ダッシュ！）

スタッフ「ちよー? ニ古くんですかー?..?

優希「その前に誰だー? お前! ?」

第26話 夏だ！海だ！せんつ

せつしきのあれは何だったんだ？

・・・やっぱり俺の小さい頃の記憶・・・?
でも俺、海行つたこと無いんだけどな

あれ・・・・・?

よ〜く考えたら・・・

俺、記憶無いから分からるのは当たり前じゃね？

・・・・・・・・・

あはははははーー!

せつしや、アニメみたいに記憶がどんどん戻るワケなことなー

よし、せつと分かれば・・・

「遊ぶぞーーー！」

優希はバカじやありません。アホですーー

「「」なんにいい天氣だつたら、日下部達もくればよかつたの」「

「やうだよな～ま、あやのとみたおの分まで楽しもひせ～？」

「よ～し、優希くん～バーチバレーで勝負でもしない?」

えつと、「あなたさん・・・?

明らかにそれは死亡グラフだろ・・・!

しかも、絶対解つてやつてるだろ!？俺、次は死ぬぞ!？

「いや、「」はスイカ割りだあ～（何でこれにしたんだ!？俺!？

「すいちゃん、スイカは持つてきてないよ～?」

「なら、俺が買つてくるー何かほかにもいるものあるか?」

「特にないですよ?ほかの皆さんもないようですし、大丈夫ですよ

「んじゃ、行つてくるよ。みんなをよろしくな、みゆき」

「はい、わかりました」

んじゃ、とりあえずスイカをつと・・・

何か、人だかりができるるぞ・・・つて、スイカ売つてんの!？

なら、早くかわなくちゃいけないじゃないか！

・・・・・

「ふー、つかれたー」

「さすがにちょっとはしゃぎたかもね」

「・・・ゆたか、大丈夫・・・？」

「うん。ありがとうね、みなみちゃん」

「ゆきちゃん、カ一いつてあんまりいないね~」

「えっと、多分あちらのほうにいるんじゃないでしょうか?」

いいな~みんな遊んで~

「あ、優希くんだ。おかえり~・・つて、あれ?スイカは?」

「ゴメンなさい。俺の田の前で売り切れになりました」

「な、何かそ~と疲れたみたいだね~お疲れさん!..」

「あいつ何なんだよ~スイカ三つも買って何するんだよ~.」

「あはは、それで今から何するの?お姉ちゃん?」

「うーん、とりあえず泳げりよ。じゃあ、ゆーひやんみなみひやん行こー」

「え？ あつ、うんー。みなみひやんも行こーひへ。」

「・・・うん・・・」

三人は元気だなーでも、大丈夫か？三人だけで・・・はー？ あの三人なら（特定の趣味のやつ以外）大丈夫だ！ 女子にあるべき物が無いから！

あ、みなみひやんが落ちこんでる。聞こえた？

「ん？ 優希くん、どうしたの？」

「えー？ いや、何でもない何でもない・・・」

JJのメンバーは・・・男でよかつた！ ツンデレ、メガネ、ドジっ子ってよりどりみどりじゃないか！？

あっちの胸ぺったんガールズとは違うぜー！

「てめえらー？ 何しやがる！？俺のスイカーー！？」

「わわわ、ゴメンゴメンーといつか、何で砂の中にスイカがあるの！？」

「・・・は？」

今このなかー！？ へんなやつに追っかけられてたのー！？ つて、そんな場合じやないなー！？ 助けないとー！？

「すいちゃん！？今のこなみちゃん達だよね！？何で追いかけられてるの…？」

「知らねえよ！？とりあえず追いかけるから、待っててくれよ！？」
黒井先生、ゆいさん！みんなを見てて下さいね！」

走ってる時、黒井先生が『やつとウチの出番がきたんやな…』・・・どんだけ出番が欲しかったんだよ！？

「おい！？俺の友達に何やつてんだよ！？つて、あーーー！？お前わつきのスイカ三つも買つたやつ！？」

「あーー！？俺の後ろでスイカ買えなかつたやつだ！？」

「お前のせいだろーー！」のヤローーー！」

「いじえ！？ふざけんな・・・よー！」

「へ・・・？」

何か次の瞬間、海に投げられてた・・・

・・・・・・・・・

ちょ！？俺泳げないのに！？
こなたに助けてもらつた・・・

海なんて・・・嫌いだー！

第26話 夏だ！海だ！さんつ（後書き）

正直体力の限界が・・・！

中途半端に終わります！短くてすいません！

では、また次回で！

第27話 白石のなく頃に（前書き）

最初に言つておきます！

私の作品に白石が多くでてくるのは『氣のせい』です！（笑）
今回の話はそんな白石の冒険です！

見たくない人はすぐに戻ろ！（笑）

優希「ひどいなオイ！？あ～でもあいつが主人公の話があ～無くて
もいいや」

ふつふつふつ、お主も悪よの～

黒優希「お代官さまほどじやありませんぜ」（笑）

では、本編をどーぞ！

白石「俺の話だろ！？・・・みんな！これ待つてたんだろ！？今
から始まるよー！」

第27話 白石のなく頃に

W
A
W
A
W
A
忘
れ
物

W
A
W
A
W
A
忘
れ
物

え？俺が誰かつて？みんなのアイドル白石稔です！

俺は今、水野から女子を守る為に田々戦っているんだ！！

決して水野が羨ましいとか、妬ましいとかの感情じゃなしそ？

~~~~~

ん？電話か？誰だろ？

「はい、もしもし? MFSですか？」

あ、ちなみにMFSの略は“水野をフルボッコにしたい”まあ、みんな一緒だよな？

『もしもしそう・・・あ、間違えた。・・・』  
「まん・・・」  
「一ムクとでも呼んでくれたまへ

「は、はあ～（汗）んで、Kさん？「どんな」田事で？」

『優希……違うー！？水野は柊つかわせんの胸に顔をつづめたら  
しい・・・。』

「・・・・・ふうロロス・・・・・」

『では、ようじへあと画面このあるよ・・・』

・・・・・・・・・

さて、ナイフと毒は持つたな・・・

よし、行くか? マツテロコミズノ・・・・・

〜〜〜〜〜

また、電話かよ! ? 早く行きたいのこ! ?

「はい! ? もしもし! ? 誰だよ! ? 今、忙しいんだよ! ?

『あ~ん? 白石の分際で何生意氣言つてんだよ! ? あたして逆ひつ

『気?』

「あ、あきら様! ? いえ、滅相もござりません! ? 何ござれいまし  
よ! ?

『後で収録あるから早くなさこよ! ? つくづく・・・

・・・・・・・・・

ふざけるな……あのちびっ子が……

俺を誰だと思ってるんだよ！？

許せん…………この娘み……受けてみろ！――

みんなに連絡しないとな……

あ、今これるか？無理？頼む、俺の代わりに水野を……！

え？俺は行かないのかって？

だつて行きたいよ！でもな、どうしても外せない仕事があるんだ  
――

だから頼む！――あとま、任せた！

・・・・・・・・

優希side

「は・・は・・はへしょん！」

や、ヤバイ……風ひいたか？

せつときからじクシャミがとまらねえ

誰か尊してんのか……ないな！？あつたら……まずこいつと

なりそうだ・・・！

あれ？何か後ろからいつぱい足音が・・・

逃げろーーーへんなああああああああああ！？

ひつして主人公の命は助かったのであつた・・・（助かったのか？

第27話 白石のなく頃に（後書き）

白石崩壊中（笑）

キララがもはや原型を残してない？

だが、そんなの気にしないのが私流！（キラッ

では、また次回で！

わあ、今日は誰でしょう？

ヒントは優しい王女様ですよ～（ほほ笑えだー！？

では、ど～ぞ！～

特別編 9月1~2日といふば···

夏休みは終わり、三年生は受験に向けて本格的に集中し始める時···

俺は、悩んでいた···

どうして···どうすれば······！

「さて、みんな！集まつたか！？」

「~~~~~YES---LET---PARTYTIME---」

「

」の場所から逃げられるのか······！

「何だよお前、俺は何もしていないだろー？」

「夏休み中にほん~つとうに何もなかつたのか？」

夏休み中···? 何も···なかつ···た···?

いやいやっ！あれば、事故だろー！セーフセーフ

「な、何かあるわけないだろ（汗）」「

「終の胸に顔を埋めておいてかー？」

「ぐはつあああああ！？ば、馬鹿な！？何故貴様がそれを！？」

あの口の「」とを「」こつが知つてゐワケ無いのに！？

は！？まさか・・・あの時・・・

あの日見たこなたのニヤ顔を俺は忘れない・・・

「アーリーだつて...」

「逃がすかつ！！やれえー！」

• • • • • • • • •

「優希くんおつづ！」

「こなた、言つたのお前だろ・・・！」

「やだなー、言うワケないじやん。ところで、今日はみゆきさん家に行くの覚えてる?」

# ボカーン(。。)

「完全に忘れてたわね」

「お、何時の間にか来てもとから居たかのよつて話すかがみんだ

「長いな、オイ?あと、かがみんつて言つなかつていつまでも言つてる  
わよね!?-殴るわよ!-?」

「デフォだけど、殴る前に言つてしまへー殴られるいつは痛いんだ  
ナーナー」

「うこのつの・・・なじむなあ  
子供達を見てるお母さんみたいな

「うひ、そんな行く時間じゃなかつたか?」

「あつー?ヤバイ!優希くん、かがみ!行くよー!..」

「な、ちゅー?待ちなさいよー?こなたー?」

・・・・・・・・

「あれ?こなた、あそここいるのつてむたかちゃん達じやない?..」

「あ、本当だ。お~い、ゆーひやん!..」

「あーお姉ちやん!..」

「先輩がた、お久しぶりス!..」

「おおーー!なたにかがみに・・・フラグブレイカーユウキですね

！？「

「何だよ、それ！？いつ俺がフラグ作ったんだよーっ回収してくる！？」

「何、バカなこと言つてんのよ？ゆたかひやん達はもう準備できたの？」

「私たちはもう準備できましたよ？」

「なんだ？わざから準備がどうとか・・・？」

「じゃあ、行きましょうか？」

「なあ、今からどこに行へんだよ？」

「いいから早く行くつスよ、優希先輩！」

「な、ちょー？わかったから、押すなって  
本当に何するんだよ？こつちは全然知らないんだぞ？」

・・・・・・・・・・

みなみ siide

・・・今日は、私の誕生日・・・

・・・だけば、みんな・・忘れてるのかな・・・

「みなみちやん、このアクセサリー何かいいですか？」

「あ……ここと思つたのですけど……私に似合いますか……？」

「……今は、みゆきさんと一緒に買つて物に……

「……何を買つのかな……つて、思つてたら私の誕生日プレゼントを選んでくれた……」

「みなみちやんは、どれを付けても可愛いので悩んでしまいますね」

「……や、そんな」と・・無いですよ・・・／＼じゅあ・・・」  
れこしますね・・?

「……私たちま、アクセサリーを買つて……家に帰る」と  
「……

「……家に行くと……何か家のなかが騒がしい……？」

「……ドアを開けてみると……

「……お誕生日おめでとう……」「……

「……みんなが……私を待つてくれていた……」

「……ゆたか……これつて……?」

「えへへ、『メンね?』ぱぱりこすのほうが驚くかな……つて、

みなみちゃんー。「メンねー。」

「・・・ゆたか・・・? ビリード・・・謝るの・・・?」

「だつて、みなみちゃん・・泣いてるもん! ?」

「・・・え?」

本當だ・・・やつぱつ・・寂しかったんだ・・・

「『メンねー・みなみちゃん!』

「・・・ゆたか、みんな・・・ありがと!!・・・」

「わあ~、じゃあみんなみちゃんー! うひに来てー。」

・・・泉先輩に引つ張られながらビングに入ると・・・

・・・リビングにも、料理やジユースがあった・・・

・・・中央には・・大きな箱・・・?

「開けてみてー? みなみちゃん」

・・・開けてみると・・・

「呼ばれて飛び出でジャジャジャジャーン! !」

・・・中から、水野先輩がでてきた・・・

「え？ 何この空氣！？」といふが、みんなは知つてただろ！「や、やめろ！ そんな可哀想な物を見る田で、俺を見るなあ！」

「……水野先輩も……ありがとウイークこます……」

「あー……今回の俺のプレゼントは俺のことを今度から、名前で呼んでくれ」

「えへ、それって優希くんが美味しいだけじゃん~」

「お前達がそいつひつて言つたんだろ！？あと、ゆたかちゃんも俺のことが前で呼んでくれよ」

「はい！ 優希先輩！」

・・・ふふ・・・顔が真っ赤ですね・・・

・・・わづこつ一画面もあるんですね・・・？

「……ありがとウイークこます……優希先輩……」

ふ、ふふ、はつはつは!

ついに、やりきったぞ!久しぶりに書けた!

優希「何がだよ?」

何か久しづびりに長いと思えるのが書けたんだよ~!  
よし、がんばった!

優希「最近、あやの達でないよな?」

・・・・では、また次回で!

優希「あ!~オイ、逃げるな!逃げる時だけ早いなオイ!」

第28話 それぞれの朝（前書き）

それぞれの朝を書いてみます！

では、本編をどーぞ！

かがみ side

ふあ～、朝か～今日は、何するんだつたけ・・・?  
確か、こなた達と何処か行くんだっけ?  
まだ時間はあるし、勉強でもしどうかな?

「かがみ～! 境内の掃除手伝ってくれるって言つたじゃない!」

「ああ、ゴメン。いのり姉さん、今行くー!」

そういえば、言つちゃつたんだつけ?  
じゃあ、早いとこ終わらせないとね。

・・・・・・・・

やつと終わつた～!

まだ、9時だし・・・ちょっとくらい宿題しなきゃね。  
昨日のプリンタせずにいたかったかな?

・・・・・・・・

ふーん、ここの方程式はこうすればよかつたんだ?

それにしてもつかせー?まだ、起きなーの?もひ、10

時になるわよ?

「かがみー?悪いけど、ちゃんと起きてくれない?朝、飯片づけられないから

「はーー」

じゃあ、起きて行くつかな?

「つかれー起きないと、朝、飯片づけられないわよー」

「・・・うーん、まだ朝じやないよー」

「せひせひ、早く起きなーー」

あの子つたらこつになつたら一人で早く起きなさるのかし  
ひ。

でも、それがあの子のこころなのかもね?

・・・・・・・・・・

こなたside

あ、もう朝かー最近何か時間が早く過ぎてる気がするよー

優希くんからメールだ？

なになに、『今ボス戦 Help me!?』……ふ、甘

いよ優希くん！

助けてほしかったらアイテムを渡すんだね！

返信つと・・・

返信早つ！？今、戦つてんじゃなかつたの！？

ん～？『助けて下さるーこなた様！』・・・優希くん・・・

君にプライドって言葉は無いの？

まあ、がんばって～！

返信つと・・・

返すの早いけど・・・本当に戦つてるの～？

今度は・・・『オワタ～（^○^）／＼お疲れ～

つて、何でもうこんな時間なの！？

さつと倒さなこと～～時間無くなつかけやつ！？

・・・・・・・・・・

優希 side

ぬああああああああああああああああ！？

何でもう一休出でぐるんだよ～～さつき倒したばっかりな

の～～？

「、こなた！？助けて～！？」

送信つと・・・、

くそー！？一人で戦うか！？おりやああああああああああああああ！  
あ、メール返ってきた。なになに『アイテムを渡すんだね  
！』俺が欲しいよ！？

お願いします！助けて下さい～こなた様！

返信つと・・・

やつと返つてきた・・・！

ああああああああああああああ！？死んだー！？やつぱりメ

ールうちながらやるんじやなかつた！？

もう、ゴールしたよ・・・返信つと・・・

助けてくれてもいいじゃん！？

「不幸だああああああああああああああああ！！？」

あれ？これって不幸なの？

待て！今日何かまだやることあったはずだ！？何だつけ・・・  
・？

第28話 それぞれの朝（後書き）

今回は、かがみとこなたと優希の朝を書いてみました！

短いのは・・・気のせいです！？

誰か～助けて～では、また次回で！

## 第29話　「これから進む道

「で？言つてあるなら聞いてやるで？水野？」

「あ、あのー…」「うううですか？何でわたし、連れてこられたんですか！？」

「黙つとけ」

俺のギヤグが！？でも、何で本当に進路指導室なんかに…？

「お前な～自分で頼んだこと忘れるなや…ほれ

「おお～…」れの」とですか…ど～もど～も…」

俺が黒井先生に頼んでたのは次の俺が行くべき資料を探して  
ください！って頼んだんだよな～…・・・アイテムを犠牲に（涙）

「でも、いいんか？水野？」

「何がですか？俺は、やっぱり行きたいんです…」

「そりやなくてな…・・・泉達のことや。あんなに中二のこ一緒に  
大学に行かんでいいんか？」

「…・・・俺も出来ればみんなと一緒に行きたいですよ。でも…・・・  
みんなと遊びたい・・・・・・気づいたやつたんですね」

「何に元や?」

「俺が今こいつやって過<sup>は</sup>ごしたみたいに、昔の俺もこんな風に過<sup>は</sup>ごしてたのか?誰かを大切にしてきたのか?って……」

「……お前が何を背負つて生きてきてるのよ、しつとる……けどな?お前が生きとるのは、今なんや。多分、泉達もこいつとるはづで?」

「……確かに聞きました。……でもやっぱり……」

「お前の人生は誰かが決めるもんやない。水野、お前がしつかり悩んで決めるもんなんや!だからな、今はしつかり悩め!」

「……はい」

・・・・・・・・・・

はあー・・・・どうすっかな~?

こなた達を選ぶか・・・昔の記憶を選ぶか・・・

こなた達を選ぶなら、今からこなた達が行く予定の大学について調べて俺でも行けるか確かめないと不可以ないし・・・

昔の記憶を選ぶなら、俺は今からでも・・・記憶を探しに行かなくちゃいけない。

どんなにここにいても、父さん母さんを探さないと・・・

君なら、どちらを選ぶ！－

誰に聞いてんだ？俺は……  
そういうや、いきなり学校に呼ばれたついでに買い物しようとしたんだけ？

今日は何にしよう？ん・・・？

前から、何か可愛い子が歩いてきてる……俺もアニメみたいに声をかけられたいもんだ。

「・・・優希？」

「へ？」

「やつぱり優希だ！？何でここにいるの！？まだ、私と会つには早いはずだよ！？ああ～！どうしよう～会つちゃったよ～！大丈夫かな～！？」

「えつと～？何言つてるんだ・・・？そして、何で俺の名前を知ってるんだ？」

「私のこと、覚えてない・・・？・・まあ、おかげで助かったし・・・いつか？それじゃあ、またね！」

そう言つてその子は早くこの場から逃げるみたいに・・・つて、逃げてるし！－？

「一体、お前は誰なんだー！？」

「私は、通りすがりの仮面ライダーだよー」

いや、ネタはいいから！あー・・・どうか行つてゐし・・・  
一体、あの子はなんだつたんだ？

第29話　　「これから進む道（後書き）

突然現れる、新たなキャラ！

優希「あの子は誰なんだ？」

まだ、優希が知るべきじゃないよ！？死ぬ気！？

優希「誰なのか知つただけで死ぬのかよ！？」

でも、これから物語は加速する！

優希「何で加速したんだ？あまりにも急展開すぎるだろ？」

では、また次回で！

優希「無視かよ！？」

### 第30話 桜藤祭会議——！—

「では、みなさん。桜藤祭でやりたいものなどはありますか？」

あの女の子に会つてから、早くも一週間がたつた・・・  
今日は、文化祭で俺達のクラスがやるものを見せるんだけど・・・  
みんなやりたいもの何か無いよな〜

「はいはい、みゆきちゃんー私、メイド喫茶やりた~い！」

「！」こなぢゃん～（汗）でも、私も・・・ちょっとやってみたい  
かも・・・

あれ？一人はやりたいものがあつたのか？  
しかも、メイド喫茶つて・・・

「それでしたら、郷土研究発表とメイド喫茶がでてますが・・・他  
にやりたいものはありますか？みなさん？」

何か入つてるー！？なんだ郷土研究発表つてー？  
誰が言つたんだ、そんなんならそいつ

「みなさん、郷土研究発表に異論は、ありませんよね

？」

恐ええー！？みゆきが暗黒面に落ちたぐらい恐ええー！？

まさか、あれ言つたのみゆきかー！？なんでそんなの提案したんだー！？

『でも、メイド喫茶だったり高良のメイド服が見られるんだよな?』

『『『『』・・・・・・・・』』』

『つひ』とま、泉とか柊妹のメイド服も・・・・・?』

『いや、待て! 確か、向ひのクラスと合図でやるんだろ、俺達の  
クラスは?』

『なら、柊姉とか峰岸とかもかつ! ?』

『それだけじゃないぞ! ?まだ、あの・・・誰だっけ? ヴァッテ  
く言つ人』

「あたしだけ忘れるなよ! ?」

あ、本人来ちゃったよ。とこか、なんでここに? 後ろにも、たく  
さん・・・

「ウチのクラスとこのクラスの合図作業は決まったわよ?」

「へ? 何に決まったんだ、かがみ?」

「私達のクラスは、これをやひつと留つんだけビ・・・すいりゃん  
はさどつ留つ?」

「・・・一ついいか?」

「何? すいりゃん?」

「・・・何故に、FATE?しかも、このシーンとか色々難しいと思つんだが・・・第一、分かる人いるのか?」

「FATE分かる人?手?挙げて!」

「ほほ、全員挙げるー!?

「うとう、萌え文化はここまで来てしまったのか?  
でも、FATEって萌えか?かつこいのほうが・・・

「つで、そりじゃなかつた!かがみ、あやのなんでこうなつたんだ?  
?」

「優希くんは、分かるだろ?けど私も読んでいい話だな~つて、思つてたところに峰岸とみゆきが来てね?」

「読んでみたら、ちよつと感動しちゃつて・・・これが決まった理由よ?」

はあ、読んで感動してやりたくなつた・・・つと?  
気持ちは分からなくもないが・・・とりあえずは設定だな?  
みんなが分かるんなら物語の説明はいらないが、設定は仕方ないしな?

「とりあえず・・・ここからから、やめをせむか

『なんだとー?巨乳にメガネにドジといつコンボが揃つている高良のメイド服が見たく無いのか!?』

『胸が無いのは致命的かもしれない・・・だが、貧乳はステータスだ!希少価値だ!つて、いう言葉があるんだぞ!?』

「ちょ！？それ、私のセリフ！？」

「みなさん、静かにしてください！郷土研究発表についての説明をしますからー！？」

「静かにしるーー！？」

「なんなのこのカオス」

本当に、大丈夫かこの桜藤祭？今からでも心配なんだが・・・

もう・・・10月か・・・

第30話 桜藤祭会議ーーー！（後書き）

この頃は、寒くて指があんまり動かない私です！

もつ、冬かー？って、ツツコミたいですね？

文化祭の話合いだけで、終わらせて「ゴメンなさい」。

若干、スランプなんだよー！（涙）

では、また次回で！

第3-1話 桜藤祭準備――毎編

結局、みゆきやほかのみんなを止めるのに時間を使って放課後にFATEの日本作つをやめにこなつた……（涙）

「みんながあわいまでメイド喫茶につけて争つなんてな……」

「それだけみゆきさんの人氣が高かつたんだよ～」

「そ、そんな」とないですよ。泉さんやつかささんも人氣が高かつたですし……」

「わ、私!？そんな事ないよ～?ね、お姉ちゃん?お姉ちゃん?」

「…え?ああ、そうね」

「?かがみ、何で元氣ないんだ?」

わづから話にもあんまり参加してないし……気分でも悪いのか?

「く~い、いや、なんでもないわよー。」

「わづなの?なら、いいナビ……」

「でも、かがみ本当に元氣なわづだよ?」

「そんな事ないわよ。じゃあ、わづが帰るわ」

「て、おこーかがみ!？・・・行けよまつたぞ」

何か今日あつたのか？

「あの~、お姉ちゃんいます?」

ん? ここの声は・・・

「ゆたかちゃんにみなみちゃん? どうしたの?」

「あ、優希先輩！ちょっとインターネットの繋げ方がわからなくな  
ちゃつてお姉ちゃんに聞こいうかと思つて……」

「あー、やーちゃんゲームノー。今ちゅうじキツイんだよねー」

「あう、じゃあ仕方ないよね？みんなちゃん、どうしよう？」

・・・誰かほかの人を探しに行こう

「おまえ、希くんが行けるか？」

へ？俺まだここにやる」とあるんだぞー！？

「でしたら、優希さんはみなみちゃん達のほうをお願いしますね？」

「ありがとうございます！優希先輩！（キラキラ）」

「…………ありがとう」「…………」

め、田があーー！？眩しそぎるーー！？

仕方ない、やつてくるか！

「じゃあ、悪いが任せたぞ？ 行こつか、一人とも？」

俺が居なくて本当に大丈夫なのか？  
やつぱり、居たほうが・・・

『では、泉さん決めまじょうか・・・? どうひがセイバー役をやる  
か・・・』

『みゆあわざじゅ、ダメだよ～みゆあわざほ魔 王 な の は  
さんつて役があるんだから』

『いえ、泉さんでは身長が足りないでしょ? しづかやりますよ』

『『ぐぬぬぬ・・・・・・・・』』

巻きこまれる前に早く行こう! ?

面倒そだもん! ? 逃げるが勝ち!

第31話 桜藤祭準備――昼編（後書き）

「こんかいは～、また何個かに分かれたりしちゃうんです！？」

もう、ネタがでてこない・・・

早い・・・早すぎる・・・！

次回いけるのか！？

では、また次回で！

第32話 桜藤祭準備——放課後編（前書き）

みなさん、聞きました！？

この作者まだ、引き伸ばす気ですよーーー？

本当、信じられませんよね！？

・・・・・・・・・

・・・涙がでちゃう（涙）

では、本編をどうぞーーー！

## 第32話 桜藤祭準備――放課後編

「なたとみゆきの喧嘩から逃げて来て、今は一年生の教室に来たんだが……」

「何なんだ?」のパソコンだらけの教室は?」

「どこのぞいつ見てもパソコン、パソコン、パソコン……何やるんだ?」

「インターネット喫茶ですよ、優希先輩」

「……でも、パソコンがインターネットに繋げなくて」

「困つてた……と、ひよりとかパティはいないのか? 分かるだろ?」

「二人とも何処かに行っちゃって……それに残ってるみんなもパソコンにあまり詳しくなくて……」

「……優希先輩、お願いします」

「そんなに頼まなくても、俺はその為に来たんだぞ? 帰れ! って、頼まれても帰らないからな!」

「……じゃあ、お願いします」

さて、どこから調べるかな……? とりあえずケーブルは? ……繋いであるか~

なら、次は設定を……ん~?おかしいとこも無いんだよな~配線よし、設定よ

「優希先輩、分かりました?」

「う~ん、おかしいとこも無いんだよな~配線よし、設定よ  
し……設定?・・・あー?」

「……先輩?…びつかしたんですか?」

「ここのパソコンって、びくせきで集めた!?」

「みんなの家から集めてきたんですけど……びくせきしたんですか?」

「ここのパソコン全部その家の家つて別々の設定になってるんだよ  
!だから、これを学校のポイントに・・・よし、できた!」

やつぱりかあ~、何か色々なパソコンがあると想つたんだよな~!

残りの設定も全部変えないとな?

・・・・・・・・・

ん~、疲れた~!さすがに全部の設定をいじつたり変えたりはキツ  
イな。ま、ゆたかちやんとみなみちやんが喜んでたし・・・いつか。

早く戻つて、みんなの手伝いしなくちゃな。

「…………！？…………！」

何だ？何処からだ！？今の叫び声みたいなの！？たぶん、ここからだよな！？

空き教室からか？一体何が……

「ヒヨリがいけないんデスよ！？ナンであんなキョーハクメールなんかだしたんデスか！？」

「パティだつてだそつて言つてたじやん！？そりや、私だつて白の騎士団とか痛いネーミングだしけやつたけど……」

「ワタシもドウザイでーす…………ヒヨコ、sororyー！アオつてこめんなさいテース！」

「「えうじて、いわなつたー！？」

あの一人は準備をサボつて何やつてんだか……困つてるのは分かるんだが、スルーしないとダメな気がする。脅迫メールだぜ？嫌な予感しかしねえよ！

…………

教室に戻つてみると、何かこなた達がほかのみんなから離れて真剣

な顔で話をしてた……何だろ?

「何かあったのか?みんな真剣に話して……」

「優希さん、さつき黒井先生に聞いた話なんですが……」の学校に脅迫メールが届いたそつなんですよ

脅迫メールがあー、今田はよく脅迫メールって言葉を聞くな

「しかも、見てよ?名前が白の騎士団だつて~爆弾とかで全部白にするかただの痛いネタか微妙なんだよね~優希くんはどう思つ?」

・・・確かに痛い内容だな。さて、どうするおれ!?犯人の正体を言つうか、あいつらの為に秘密にしておこうやるか・・・・・これしかないよな?

「ああ、それひより達が書いてたやつだな?まだ、向こうの教室に居たと思つぞ?」

おれがあこつらにされた事に比べたら、ほんの些細なイタズラだろ

「お前、・・・覚悟はできとこやつくな・・・?」

「ひよ〜ーー~どつこい!」がー~?」

「お前、・・・覚悟はできとこやつくな・・・?」

「ヒヨコ・・・ゼッタイにワスレませんヨー~!」

「待つて！？パーティ、置いてかないでーー！？」

「お前ら待たんかーーーー！」

「「ひょえーー！？情けをーーー！？」」

うん・・・分かつてた、こうなるつて・・・

だから、あえて言わせてもらひつ・・・

・・・アーメン・・・（涙）

第32話 桜藤祭準備——放課後編（後書き）

優希「彼方さん？言つことは？」

オンドウルウラギッタンデイスカー——

優希「か、彼方さん……言つことは……？」

僕と契約して魔法少女になつてよ

優希「だあ——！？大事なことを言えよ——？これで、ラストな——？よ  
うし、スタート！」

ノモブヨ オシ ハシタワ ドケダ グンミーチャ デ  
リブラ！

優希・私「遅れてしまませんでした——！」

優希「次回は、早く出させるんでも！本當、すいませんでした——！」

**特別編　10月25日とこねぎ・・・（前書き）**

今日は、特別編！

だが、本編と繋がつてないのでよろしく！

では、どう！

特別編 10月25日とくべつ

「あ～皆のしさ」、「今田せみゆきちゃんの誕生日だあ～セーの……」

「

「「「「誕生日おめでたし……みゆき（やさ）……」「」「」「

「今まで誰わんの誕生日をお祝いやせてもうこましだが、自分の番になると……恥ずかしいといいますか……うれしいといいますか……」

「まあ、やつこいつもござ無いのか？」

今田は、みゆきの誕生日だ。こいつも勉強とかマメ知識を教えて貢つてゐるし、何かたまにはお返ししなくちゃな……

「みゆき、今回のプレゼントは……」

「あれがや～、クッキー出来たよ～食べてみて?」

お、俺のセコフが!?

つかさは天然だよな……?知つてて言つてんけどなによな……?  
?そんなヒドいことしないよな……?

「なあ、かがみ泣いていい?」

「あなたは何やつてんだ?変なことしないで早くみゆきにプレゼント

ト渡しておなれこみ?」

華麗にスルーされたあげく、本来の目的を諂へて出されてくれた!?

なんてシン「ト」レー!

「・・・何か変な」と嘗めなかつた?」

「や、そんなわけ無いだろ?えつと、プレゼントは・・・あれ?」

「?優希くん、どうしたの?」

「嘘だろ・・・?プレゼントがどうかこいつかった?」

ガンッ(殴られた音)

「アホかあんたは!?プレゼントをわざまで持つてたんじゃなかつた!?」

確かにやつたかな~つかれて畠取られた後に、かがみに話して・・・あ!?

「わたしのせいかよ!?ほら、やつれと探すわよ!?わたしましつちを探すから、あんたはあっちのほうを探しなさいよね!?」

何処にやつたかな~つかれて畠取られた後に、かがみに話して・・・あ!?

「何?あつたの?」

やつと思て出したぜ・・・。そう俺は、あそこに置いたんだ!だが、

もう大丈夫だ・・・そう・・・

「プレゼントは・・・あやこだーーー。」

「・・・はー? あんたバカ! ?」

そつその場所とは・・・

みゆきのすぐ後の机だー!

「心配して損した・・・早くみゆきに渡しきなれこよ・・・」

かがみから言われても今はスルーだ!  
先にみゆきに・・・

「みゆき、俺からのプレゼントだ」

「優希さん、ひとつあります。開けてみていいでし  
ょうつか?」

もちろんだと。それを、早く開けてみてくれ

中から出でるのは、あれだ!

「えつと・・・ハートのアクセサリーですか? 私にハートの  
は可愛こすれるのでは・・・」

「そんな事ねえよ? みゆきは可愛いから向でも合ひつと黙りつんだが・・・

・

「やつですか・・・ありがとハートがすまね、優希さん」

「へえー、みゅれんは可愛いかい句でも合つんだー羨ましいなー。  
ねー、かがみ？」

「わうねーでも、優希くんはやつぱり罰が合つと黙つんだー」

「えー？ちよ、一人ともー？俺は悪いこと何か言つてないだひー？  
だから、やめ・・・わあああああ」

結局、死にオチかー！

今回のプレゼントの意味は誰にでも愛情が捧げれる、まれにみゆき  
にぴったりのキーホルダーなわけだ・・・え？なんでキーホルダー  
かだって？

同じのを選んだらまずこ笑がするから毎回えてんだよー？

おや、そろそろお迎えがきたみたいだ・・・

特別編　10月25日とこねや・・・（後書き）

正直言つと・・・今日がみゆきわんの誕生日ついと・・・忘れてたよ～（てへ

いや～、帰つてそつこえぱいつがみゆきわんの誕生日だっけ？つて確かめたら・・・まわかの今田だつたとー！

焦つたね、やすがに焦つたねあれは。

・・・分かつてゐ、言わなくちゃいけないことがあるついとせ・・

みゆきさん、すいませいませんでしたー！？

では、また次回で！

### 第33話 桜藤祭準備——！——夜中の学校は・・・！？

ひとりとパーティのメール騒動が終わって、俺達は劇の為に準備に戻つたんだが……

「なんで何も終わらないんだー！？」役者も決まった、準備も大体……つて、全然じゃねえか！？小道具もまだだし……無理だー！？」

「優希くん、諦めたうらうらで試合終了だよ？」

いやもう安西先生はいいから……とあります、今の状況だけでも確認しつづけ。

「役者は、もう大丈夫なんだよな？」

「優希ーそれなんだけどよ、あたしの出番まだでさー何すりゃいい？」

は？いやさつき役者は決まつたみたいないと黙つて無かつたか！？

「なんでお前の出番が無いんだ？みさお？」

「あのね、すいちゃん。それは、私のせいなの

「え？何であやののせいなんだ？」

あやのとみゆきはしつかり……あのばか多い脚本書いてくれただろ？

まあ、たすかにあの量は多いから減らしてくれとは言つたが……

まさか……まだあの脚本完成して無いのか！？あやの……頼むー嘘でも……よくねえや。出来ると言つてくれ！

「実は、まだ出来てないの。量は、大分減つたと想つんだけど……新しいキャラを増やすか、話を伸ばすか悩んでて……」

はあ、やつぱりか……って、新しいキャラっ何だそれ？誰を出すつもりなんだ？

「私がだそつと思つたのは……ジャッジャンー！」

・・・・・・・・・・

なの方のフェイトかよ！？んなの、フェイト繋がりだけじゃねえか！？確かに魔法はあるけど、それだけで出せるわけないだろ！？あと、可愛いぞこんチクショーー！！

「あれ、フェイトちやんはダメだつたの？てつまつ、フェイトちやんが主役の劇になると想つたのに……」

まさかの根本から違うのかよー？もうダメだ……いやー！まだだだーまだ、希望はあるー！

「こなたーあやののサポートを頼むーなのばじやなくて fateこなるよつてー！」

「あ、うんー峰岸さんようじへー」

「うわあ、お願ひな。泉ちゃん」

「シッコリリ! までも疲れるとは……れあ、次は……

「あやのー、チビッ子ー、手伝ってやうつかー? 今世紀最大の名作になること間違い無しだぜ?」

「あんたが関わると名作じゃなくて迷作になるでしょ?」

おおーやすがシッコリの神、かがみ様。なかなかヒドイシッコリをしゃがる。それに対しても、みさおの反応は……

「うう、あやのー? 梓が氷のように冷たいよー」

何か、かがみが死んだみたいに聞こえるな。さて、じゃあ次は小道具か。担当のつかさは何処へ……お、いたいた。

「おーい、つかさーちょっと来てくれー!」

「うあん、すこちゃん! ちょっと今手が離せないのー!」

あ、そういうえばその通りか。俺が言ったほうがいいに決まってたな。

「で、つかさ! 小道具の完成度はどうなんだ?」

「もうちょっと手伝ってくれる人がいたら、早く終わらうそうなんだけど……」

うーん、手伝ってやりたいんだが……俺もやることがあるしな……

「悪いが・・・つかむ。後で、絶対手伝つから今はみんなとやつてくれるないか?」

「あうー、絶対だよ?それまで頑張るからー」

今夜は、徹夜になるかも知れないな・・・しゃあないか。  
よし、気合入れてやるぞー!――

・・・・・・・・・・・・

・・・・・はー?やべえ・・・もしかして、俺寝てた!?

教室の中には、誰も居ないな・・・今何時だ?

オイオイ、冗談だろ!もう10時かよ!?今日中に終わらせたかったのになー

あ、でもまだ体育館の電気はついてるのか。え?まだ誰か俺以外にも居たのか?1人じゃ寂しいし、俺も行こうかな?

そう言いながら、教室から鞄を持つて教室からでた。

「夜中の学校を一人で歩くのはやつぱりといつか、デフォなのか?」

そんな独り言を言いつつ廊下を歩いていると、空き教室から何か聞こえる・・・って、またかよ！？

そう言ひてもやまじ気になるので、少しそりドアを開けて見てみると・・・ひつ！？や、幽霊！？ヤツバイ氣づかれた！？やられる・・・！

目の部分が丸く光ってて、一つの蛇みたいのが顔の横でうねってる！？あと、杖を持っている…？

「・・・S・・R」・・・BREAKER

！？最初のほうは聞こえずらかったのに最後のブレイカーだけ何で流暢に言えるんだよ！？

逃げるが勝ちだ！？といふことで俺は後ろも振り返らず即体育館に情けなく逃げるのであった。幽霊？無理に決まってんだろ！？

・・・・・・・・・

体育館に着いた俺は、まずみんなの姿を探して・・・居た！？助けてくれ！俺は、走って近づこうとしたが、何かにつまずいて手を伸ばした結果・・・誰かを押し倒した格好になってしまった・・・！

「なー？ちよ、優希くん！？・・・こんな公衆の前で何やってんの

「…………」

「ま、まさか……かがみを押し倒してしまつてしまつて、と  
りあえずどがなことな（大汗）

「わ、悪いー？ 土下座で許してくれー？」

「べ、別にいいわよー？ フザビジヤないんだし……事故なんだか  
ら、仕方ないじゃなー！？」

「おおーー！ 今日は、かがみが優しい……おかげで助かつた……  
……って、そびじやないー？ みんなに言ひことがあつたんだー！？」

「こなた、かがみ、つかさ、あやのにみをおも落ち着いて聞いてく  
れー？」そつき、空き教室に幽霊がいたんだー！」

「…………」

「な、何だ？ 何でみんな黙つてるんだ？ 幽霊がいたんだぞ？

「…………」

「はー、あはははー！ 優希ー、そつやーへー向ひも無こぜー

「優希くんー、そんな子供騙しにはまのせかがみぐらーだよー

「いやー！ わ、私は全然怖くないからなー？」

「あはは、すこちやん。れすがに幽霊はないとゆづわよー」

みんなが・・・みんなが、ヒューリ・・・！

しかも、あの優しこあやのままで・・・俺は、これから誰を信じればいいんだー？

「アハいえば、すこひやん。むきむけやん知らなこへアハ、校舎のほうに行つたままで帰つて来なにの」

「え、みゆきへこや、見てないけビヘ。」

「アハかへ、むきむけやん向処行つたんだルヘ。」

そつか・・・みゆきは囁なごのか。みゆき今まで笑われてたら、俺は・・・

つて、アハじやなこーへアハアヒ作業終わりせんべー・?みんな、いなー

「　　「　　「　　「　　「　　」」」」」

やつと纏まつて來たな、いじりまくたんだけだ・・・最後までもつて  
やがりやねえか！

### 第33話 桜藤祭準備――夜中の学校は・・・!?(後書き)

今回の話は今までの中で一番長い気がするー。

そして、みなさん一つ質問いいですか？

1・桜藤祭準備――を別ルートでだすか。

2・もつ準備はやいなくていいー!

3・優希ボ「ボコルート( = = . )

よかつた!この三つの中から、一つ選んで感想なりで下をこーー。

待ってまーす、では、また次回でー!

第3・4話

桜藤祭準備――夜中の学校は・・・！？part2(前書き)

桜藤祭準備――？は今回でやっと終わりです――

前置きはスルーで本編をどーぞ――

## 第3・4話 桜藤祭準備――夜中の学校は・・・! ? part2

・・・うーん、よく寝たー!えっと、昨日作業が終わって1・2時くらいには、みんな解散したんだよな?確か・・・

まあ、とつあえず・・・はあ!・?何で学校に!・?俺は家に帰つただろ!・何がどうなつてんだよ・・・

『そりゃ、仕方ないでしょ?』

誰だ!・?そう言つて後ろを見ても前を見ても誰もいない・・・誰なんだよ、お前は!・?

『あれ? わかんない? 前に間違えて会つちやたじやん

・・・あ!・あのワケ分からんことばっかり言つてた子か!・?  
何で君がここに!・?といふか、ここは何処なんだ!・?教えてくれ!

『待つてよ!・?そんなこまごまで質問されてもこいつらも困るんだからー!』

え、ああ、悪い!・

『ここが何処かと言わいたら・・・ん~、世界と世界の狭間・・・  
かな?』

?意味があんまりわからないんだが・・・  
天国と地獄みたいなものか?

『大体、合ってるかな？で、何でそこで君がいるかとこうと・・・』

待て待てー！つまりあれか？アニメとかでよくある展開いわゆるお約束に俺は現在進行形で直面してるってワケか！？

『そりだよ？だから、私はここに呼ばれたの。優希・・・君を導く為に』

・・・・・・・・何か可笑しいとは思つてたんだ。

『やつぱり、イキナリすぎた？仕方ないよねーただのオタクでアホでバカでどんくさい優希にこんな話は・・・』

ちよ、おまー？何で俺こんなに言葉の暴力受けまくってんだ！？泣くぞー！？

『オマケにスケベだしむつりだしダサイし、喧嘩ばっかりしつつも一人でいくし、優しいし、カッコつけてばっかで・・・』

まだ、言つのかよ！？俺が何をした！？

そうツツ「こんだ瞬間、その子は何か言つか言わないかみたいに、躊躇つて顔を下に向けた・・・って、オイオイ！？もしかして、泣いてないか？

『どうして、どうしてこうなっちゃったのよー！あなたは、いつも私を助けてくれた・・・だから、私もあなたを助けたかった・・・なのに、どうしてー？』

お、俺と君はまだ会つたばっかりだろ！？

そつ言つた瞬間、何かが俺の鼻に直撃ーぐあああーー！？またしても、鼻に！？何すんだよ！

『会つたばかりなワケないじやない！？私とあんたは・・・って、今あんたに言つてもムダか・・・』

いて、何だこれペンドントか？これビツクんだ？

『そのペンドント貸してあげるから持つときなぞこよーただし、次念つ時に返しなきこみー？』

何なんだよ、しつかしまで変なペンドントだよなーどことなくソウルジエムに似てるような・・・・・・#さかー？お前、俺を魔女にするつもりか！？

『あんたばかあー！？今、ナウコツヒネタはーいのよー！』

ふつ、前の仕返しだー・・・・で、何の話だっけ？

『優希がこの話を理解できたかつていう話』

多分、分かったと思うぞ？

『そつ、ならいこや。もう聞くひとはない？』

じゃあ、一つだけ聞かせてくれー君の名前は？

『私の名前？名前はね・・・』

『星河めぐるだよー』

星河・・・めぐる・・・

ぐつー？何だこれ！？体が消える！？おい、星河！？

『もう・・・時間切れかあ・・・それと、優希！私のことほめぐる  
でいいよ？』

何が時間切れか教えてくれよ！？

俺の意識が消失した。

・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・

そんな懸念も浮かぶワケなく、ここは俺の部屋だ。

本当、朝から変な夢みるし・・・疲れてるのかな？俺・・・

ふと、机をみると机のあるワケない物が視界に入った。

急いでベッドからでて、それを手にとつても・・・本物だ。

「何で星河の……めぐるのペンダントがここにいるんだって。あれせ、夢じゃないのか？」

たくさんの疑問が頭に浮かんだが……もつとヤクルト一箱と元氣づいた・・・！

「今、8時かよ！？こんな日の絶対おかしいよーーー！」

ぐわっ！意地でも遅刻だけはしてたまるか！？

いつも、俺の桜藤祭の一田は始まつた！

ついにオリキヤラ再登場——今回のゲストは……！」さう——！

白石「呼ばれて飛び出でじゅわ」バタン——！

何だったんだ……私は白石は呼んでないぞ……？

「ふうー……改めてゲストさん……ぞーぞー！」

かがみ「ヨーグルトをかき混ぜて……パン工場——」

・・・・・・・・

でさ～今回の優希が貸してもらったペンドントつて、何か重要そうだよね～？

かがみ「ち、違うのよ～?これは、こなたがやれって言つたからやつただけなんだからね～」

大丈夫だよ～私何にも見てないからさ～

かがみ「ぜつ～たい！秘密だからね！分かった！」

はいはい、ではまた次回で！

第35話 桜藤祭！

かがみ side

今日は桜藤祭！みんなであれだけがんばったんだし・・・今日は、楽しまないとねー。その前につかさ起じなきゃダメか。

「つかさー、早く起きなこと置いてくわよー？」

「ん～あと、5分だけ・・・」

寝てるしー？まったく・・・なー？もうこんな時間ー？あたしが起きるのがもともと遅かったのー？

「つかさー、悪いけど先に行くからねー？」

「ふあー・・・いつていらっしゃーい・・・」

あんたも行くんだからなー？

そんなツッコミを置いて私は家を後にした。

・・・・・・・・・・・

うわあ・・・ちょっと人多すぎない？こなたと前に行つたコモケベ

うう……やめよ。人がここのはむつじつ……

「人がまるで『ハリ』のようだ………だったよな、あやの一？」

「わう、みさちやんたら……そんなこと言つたら失礼でしょう？」

「えーい、じやんに、じやん！」

峰岸と田下部は……こつもどりうね。とうあえず声ぐらじかけといつかな？

「あんたは朝からなにやつてんだよ」

「おっす終ー！何だよー終まで～冷たいぞー」

ダメなものはダメなーまつたく……だいたいね、あんたがいつもそんな感じだから……

／＼＼＼＼

あれ？電話だ……こなたから？

「どうしたの？こなた？」

『今からゆーちゃん達のクラスに来てよ～。いいもの見られるからー。』

「はあー？いいものって何なのよ？」

『まあ、とりあえず来てねー！』

はあ～、いいものって言われたら行くしかないかあ・・・峰岸はどうする行く？

「オイ！柊ー！何であたしは誘ってくれないんだって、ヴァーー！？」

「う～ん、私は行きたいんだけど・・・みわちゃんのセリフの最終確認しなくちゃいけないから」「ひら

「ヴァー！あやの昨日あんだけやったからもういいじゃんー！？」

「じゅあまた後でね、柊ちゃん」

田下部は峰岸に引っ張られて行つた・・・みんなの成功がかかつてんだから、ほんと頼むわよー！

・・・・・

ただ歩き回るのもなんだし・・・誘われた手前、ゆたかちゃん達のクラスに行つてみた・・・べ、別にさみしいから来たわけじゃないからねつ！

ドアを開けてそこへ待っていたものは・・・

「うなたー今ならまだ許してやるからやめねえだー。」

俺、悪い」としてないはずなんだ……」何でこんな所におわなく  
ちやいけないんだ……！

「優希くんー早くなこと時間無くなるから諦めてよー。」

！  
何で、そんな目で見るんだよ！？しかも、力強つ！？逃げれねえ・・

「 ものの外で おもてなしを うながす 」

• • • • • • • • • •

かがみ side

黒髪を後ろで短くまとめ、メイド服に身をつつみ、何処からどう見ても女の子のメイドさんに見える・・・優希くんがいた。

「ふつふつふ、どうだねががみ？私の作りだしたメイドは」

ヤバイな・・・最近、疲れてると思つてたのよね。

そろそろ休憩しないとダメかしら?」なた?飲み物もらえる?

「かがみ様！？スルーが1番悲しいです！！」

しょうがないなあ・・・一応、怪しいやつに聞ことくか？

「こなた～？ビリしてこうなったの？」

「いや～何で今まで気づかなかつたかね～。過去の私は！」

「いや、何にだよ。詳しく言へてくれ」

何かイヤな予感しかしないけど・・・

「男の娘だよ！？リアルの男の娘だよ！？」

ま、まあ・・・そりや可愛いとは思うわよ！けど、女として何かこう・・・認めたくないというか、嫉妬心といつか・・・

「かがみ、ニヤニヤしたり悩んだりしないで何か言つてあげないと優希くん泣くよ？」

「もう泣いてんだよーちくしょう！」

何やつてんだか・・・あ、そうだ。

「こ～の後、二人はビリあるの～ヒマなら一緒に回らない？」

「う～ん、行きたいんだけど・・・これからちょっととね・・・

「ん？何が・・・」

あるの？と、聞こうとしたけど理由が分かつた。

教室のドアの所に人、人、人！何でこんなにいるのよ！？

「ふはははー！人がまるでゴミのようだ！」

「あんたもか！？」

「あれは、〇（おとこ）の娘）ハだよ？リアルの男の娘を求め、日々  
悪と戦うつてこいつ・・・」

「までまでまで！そんなのおかしいからー？第一悪つて誰なのよー？」

「子供の親とかPTA」

「あんたらが悪いんだろうが！？」

「な、なあ？こなた？あいつらは何でこんな所にいるんだ？」

確かにそうね、何でこんな所に・・・あつ！まさか、こなた・・・

あんたが呼んだんじやないでしょうね？

「へへへやつた（^\_^）」

「 もうかやつたじやなにだらおおおおおーへ、アリハシルー。今にも突  
撃しちゃうんだカビー。」

『本当に男の娘がいるんだよな！？』

『ああ！しかも、超可愛いからしいー。』

・・・み、みなさん。落ち着いて『

『コーヒー10杯でスペシャル特典が付いてくるらしいぞ！』

『確か、ゲームの特典が好きなポーズでのセリフだつたはずよ！』

『お姉ちゃん！もうムリだよ～！？』

・・・恐ろしいわね・・・OHメンバー！

「こなた！頼む！今度何かおくるからー！？」

「今、逃げられたら私が大変な目に合ひんだけよ！ もう一歩、開けちゃつて！」

「へ、うん。みんなん、じゃぞ・・・机を机ね机ねー。」

ゆたかちゃんがドアを開けた瞬間、一気に人が我先にと優希くんの所にむかつた。

『マジで超可憐いじやないこの娘ー』

『カメラヒビ』トオを回せ！ もうひとしきり！ 戦いはもう始まってるんだ！！』

「さあ、せひおひなさまに、おもてなしをせんよ。」

あの人達の流れで追い出されたけど・・・優希くんがこの後どうなることやら・・・

・・・結局、一人で回ることになるのか。

第35話 桜藤祭！（後書き）

すいませんでしたー！（＝＝：）

先週はだせず・・・今週は何か微妙に・・・

本当にすいませんでした！

では、また次回で！

優希の写真が欲しい方はここまでつて、見えないじゃん！？

かがみ side

優希くんコスプレ会場みたいになつてゐる教室からでてきたけど……  
ヒマね。

見て回つたるはだ……特に面白いの無いも無い……

『えー？ 優希の女装写真が撮れる場所があるの……？ しかし、めぐる  
ちやんがんばつちやんばつ……。』

・・・へえー、優希くんって私達以外にも可愛い女子の知り合いか  
居たんだ……？ しかも、名前で呼べるほど仲がいい子が……！

「おーい、柊……何イライラしてんだよー？」

「何でこいつがここにいるのよ？ しかも、心でも読めるのかー？

「ベツにーー！ あんたこないしたのよ？ 確認はもう二度と？」

確か峰岸とセリフの確認だったはずよね？

まあ、あんたのことだからどうせ、抜け出してきたんだって、ヴァー、  
とかなんとか言つてしまふ？

「いや～それがさ～あやのが兄貴と一緒に行つたりもつてしま～柊でも  
探そつかな～？ つて、ワケよ」

珍しいパターンもあつたもんだ。

「で、田下部あんたはどこか行きたいとこある?」

「さつき聞いたんだけどなー優希の女装が見れるらしいぜーーー?からかいに行こうぜーー」

私さつき行つたばかりなんだけど・・・・ひょー? 引っ張るなよー?

・・・・・・・・

結局、引っ張られたまま戻つてきたけど何この人の数!? 何で教室の外まで人が溢れてるのみ!?

「なあー終ー? やっぱりやめて何か食いに行かねー?」

あんたがここに連れてきたんでしょうが!?

でも、あの中に行くのは流石にね・・・ああ、でも中に優希くんが居るし・・・やっぱ見たいし~あ~, もうー

「田下部ー! グダグダ言つてないで行くわよー!」

「えー! 行くのかよー!」

今度は、私が田下部を引っ張つて教室に行こうとした。

でも、誰かがいきなりでてきてぶつかるはめに・・・

「いつた～！」

「あいたたた、そつちの人丈夫ですか？すいません、いきなり飛び出しちゃって・・・」

その声の主は、私を見てとても驚いた顔をしていた。  
私の顔に何か付いてる？

「私は大丈夫よ。あんたこそ大丈夫？」

ぶつかつた人は優希くんのことを親しそうに呼んでたあの子だった。

私は自分でも分からぬ内にこんな質問を知らない彼女についていた。

「ねえ、あなた？何で優希くんの名前を知ってるのー？」

その瞬間彼女に、しまった！っていう表現がぴたりの悔しそうな顔をした。

「・・・かがみも知ってるよね？記憶喪失や過去のこと・・・」

何で私の名前を・・・いや、違う。今、聞くべきなのは記憶喪失のこと！

頷いて返すと彼女は何処か諦めたように口を開いてくれた。

「これから優希は、「なあー、柊とそここのちびっ子ー？」優希って、記憶喪失なのか！？初めて知つたぜーー・・・ちびっ子言つない！？」

あんたってやつは・・・大事な話だつたのに何でこことしてくれてんのよ!？空気が一気に変わっちゃつたじゃないの!？

「あはははー流石みやわきちねー！空気を壊す天才だねー」

曰下部の名前まで知つてゐるこの子?会つたことあるかしら・・・?

「ねえ、あなた?何処かで会つたことある?なあなあー！？何で何でも知つてんだー！？ちびっ子!？」 わりきからあんたは黙つてゐる?」

「やつぱり、かがみはひじやなことねーそれじやあねー」

「待つてーー応聞きたいんだけど、あんたの名前は?」

「ー応つてーひどこなー星河めぐるだよ?めぐるって呼んでねー」

そつと彼女、いや、めぐるは出口の方に向かつて行つた・・・あー?結局、優希くんとどんな関係なのか聞いて無かつた!？

「ん?終ー何かネックレス光つてね?」

「あ、本当だ・・・きれい・・・」

「だなー?それよりも早く優希に会つて行つた!」

この時の私たちは、本当に気づいてなかつた

・・・これが、この桜藤祭が・・・

私たちを日常から離れさせたのは・・・

誰も気づいて無かつた・・・

## 第36話 桜藤祭！part2（後書き）

優希「何かイキナリ急展開になつてないか！？」

KI NO SE I YO

優希「俺の出番とヤリソラすら無かつたんだが…？」しかも2話連続で  
「！」

え？ 女装状態であつたじやん？

優希「あれば、俺じゃない…・・・！」

ふ、じぢぢじま[ジ]真があるところ…・・・

優希「セコすぎるだろー…？ オイ…？」

では、また次回で！

### 第37話 桜藤祭からの忘れ物

俺、いやわたくし水野優希はちょっとだけ普通の一般的な高校生とは違う人間である。

昔の記憶が無いし、顔も、もし女装したら（優希はしてないことをした）女子に似てることや、ケンカが強いなどある。

そして、時々変な夢を見る。

俺の昔の知り合いで奇妙な話を聞かされる夢や過去の記憶の夢などだ。

この一年、こなた達と出合って色々なイベントを過ごしてきた。

そして、今ひとつイベントが終わらなくてここ。そつ、桜藤祭だ。

その桜藤祭の最後に文化系のクラブにより桜藤祭についての記事が書かれる。

じいまで呼んでもらつたら分かつてくれるだろ・・・今、俺の田の前にあるものは・・・

『一年D組女子ランキング！第一位小早川ゆたかさん・・・とにかくのですが、途中いきなり現れた美少女水野優希さんです！』

『第一位の小早川ゆたかさんを大きく引き離してぶつかりの一位

です！

『水野さんによせられたいろいろなコメントには、俺の嫁！や、俺の女神！などなどたくさんのお言葉がありました！』

『いやー、スカウトしたのは私だけど、まさかあそこまで行くとはねえー・・・とりあえず一位おめでとー！優子ちゃんー』

『海で体見てますます女子っぽいなあ～って思つてたんだよね～』

製作者アーネーション部  
一年田村  
三年泉

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

何が、おめでとう！だ！こなたが無理矢理やらせたんだろ！？

しかも、自分のインタビューを自分たちでまとめるなよ！？そういうのは密の人か一位のゆたかちゃんに聞くべきだろ！？

そりや一位になつて桜藤祭MVP賞つぽいのせやひつたナビ、その賞はゆたかちやん達の1-Dに取られるし・・・あああーもうほんぢたつてきたー!

やつぱり一回ガシンと軋つてやる……覚悟しちゃう……」

「あなたは一人で何をブツブツ言つてゐるんだ?」

かがみか?今、ちょっと○ H A N A S H しに行きたいんだが・  
・

「やういえばあんた星河めぐるって子知つてる?」

「な、なんでかがみがめぐるを知つてんだよー?」

めぐるとかがみは知り合つたんだよー?

だつたら何でもうと早く言つてくれなかつたんだよー?

「私も桜藤祭の時に初めて会つたわよーでも・・・めぐるは私と口下部の名前を知つていたわ。初めて会つたのに・・・」

初めて会つたのに名前を知つていた・・・?

夢の中で会つたりしてゐからおかしいとは思つてたけど・・・

なあ、めぐる?

・・・お前は一体何なんだー!?

「ひー、マジメな話だらうが!..ネタはいいからー」

「まあ、今は待つことしかできないんじゃねえか。」

「そりや、そりや、ただけど・・・優希くんの過去を知つてゐるのかもしけないのよ?聞かなくていいの?」

「俺さー、まつきづきと過去の記憶はもういいかなー?って、思つてんだよな」

「…?」

そんな驚いた顔すんなよ。

別に諦めたわけじゃない……俺は、今……いや、かがみせこなた、他のみんなが一緒にいる今にいるんだ。

「優希くん……」

「だから、俺はめぐるを待つ。だから、いつか解るんだから待つてればいいだろ!」

「めぐる……俺はお前を待つ。だから、いつか話してくれよ?」

その時、めぐるにもらったペンダントが弱く……だけど、確かに光った!?何故!?

「私のネックレスも確かに光ったはずよ?にしてま、やっぱりきれいね~!」

これ、光るものなのか?

焦るじやねえか!?ってつきり、魔女になるかと……なわけないか。

「やついえ、ばゆたかちやんの誕生日もつすべりこいね~?…優希くん行けるの?」

「ああ、余裕余裕」

「今回の期末落としたらヤバいんだから勉強しなさいよ？じゃあね  
かがみは教室に戻つて行つた・・・じゃない！？期末ヤヴァイ！？  
何にもしてねえぞ！？」

「誰か勉強教えてくれえええ！！！」

本当に行けるのか心配になつてきた・・・

### 第37話 桜藤祭からの忘れ物（後書き）

優希コスプレ計画は夏の前のこなたの計画でした！

優希「誰が覚えてんだよ！？そんな古い伏線！？」

みんな覚えてくれてるハズだよ！？

優希「また、めぐるがてきたな？本当にどうなるんだ？今後の話  
は？」

一気に聞かないでよ！？今後の話はなるべく早くさせよといふやうの  
から大丈夫だよ！？

優希「ところで今度は俺が借りたペンダントが光ったんだが・・・  
あれは何なんだ？」

まあ、それは秘密で では、また次回で！

### 第38話 テスト何それ？おこしーの？（前書き）

映画見た後に小説を書く・・・やる気が出ない・・・なぜなんだ・  
・！

movie大戦メガMAX！見てやるMAX！・・・上手いふう  
にいかないもんだ（〃〃・）

達観してる場合じゃない！？

本編をどーぞ！

### 第38話 ハスト向それ？おこしにの？

「……笑えばここと思つみ？」

「……何だつて？といつか、教える氣ないだろー。

「だから～やうじやなこつて！」

「……何でだよ～・・・じやあ、ハジマ?

「ハジマですかね～」の方式を使って・・・ハジマ?

「あ～全くわからねえ～やつぱり勉強なんて無理だーーー！」

何で、かがみとみゆきはできるんだ！？いや！俺は甘いものを食べるとなれば指数が飛躍的にアップするっていう特殊能力が・・・

「みんな～！ケーキ出来たよ～！」

「あんたは誰に向かってこいつケしてんだ？」

「まあ、細かことには気にはすんなよー食べよひせーーー。

俺達は今、柊家にて、勉強会（？）をやつていた。

かがみとみゆきが教えて、つかさがケーキを作り、俺とこなたが遊びつつみんなで食べるところ完璧の布陣だ！！

「『じ』とか『ひ』も『元壁』じゃないからー!~.」

「何処がだー?」の布陣を敗れるテストは無いー!~弱点なんかあるワケないだろー!~.

敷いて言つなら、俺の点数が落ちるだけだ!ただ、それだけだ・・・!

「あのー、威張って言つことじやないと思つますよ~.」

「みゆきさんー!」の布陣には、優希くんの大学にいける確率が下がるつていう効果もあるんだよー!~.

「めんなさいー!ダメダメ! (たぶん) するので教えて下さいー!~.

「しようがないわねえ・・・じゃあ、優希くん。この問題やつてみて?」

・・・・・はい(涙)

・・・・・・・・・・・・

お、終わった……さすがに、成績トップ級の一人の教え方は分かりやすいが疲れるな

ガチャ

「みんなそろそろ」飯だけば、食べて行く？」

ドアを開けてでてきたのは、かがみとつかさのお姉さん……と言われたら信じてしまいそうなお方、柊みきさん……なんと、かがみ達のお母さんなのだ！？

「お、お母さん、みんなもう帰るから大丈夫だつて！」

「すいません、みきさん。ありがと」「わあ。

「あら、優希くんそうだったの？じゃあ、今度またいらっしゃい。がんばって作るから」

みきさんのレシピがあーー楽しみだなー！

よし、今度絶対来よう！

「「何で優希くんとお母さんが普通に話してゐるのー？」」

「え？ 7月7日に誕生日会やった時に会つただけ？ みんなにびっくりしなくても……」

「じゃなくて、何でそこまで仲がよくなつてんのよー？ 優希くん、

あんたまさか・・・「

ちつがう！？何無いことを勝手に言つてんの！？かがみ！？こなた  
とみゆきの冷たい目が痛いから！？

「俺とみきさんはよくスーパーでたまに会うんだよ！だから、会つたら挨拶したり料理について聞いたりしてただけだから！？」

「そ、そうだったの・・・よかつた、本当にそう思つたじやない」

「はいー、じゃあ、誤解が解けたところでこなたちゃん達はまだ帰らなくて大丈夫?かなり、暗いけど・・・」

「あー！？ やばい！？ 今日早く帰らなきゃ行けなかつた！？ 優希くん、みゅせんー急いでー！」

あ、ああ！かがみ、つかせ、みきさん！お邪魔しましたー！

「明日のテスト頑張りなさいよ！」

かがみがデレた！みんな、かがみがデレたよ！

「明日のテスト、酷かつたら覚えときなぞこよー・・・もつづー。」

• • • • • • • • • • • •

水野優希以下の点数により追試を行う

数学  
9点

理科  
23点

世界史  
17点

保険  
28点

英語全文

み芷浦へと思え? by 黒井

「か、かがみつ！これには、ワケがあつてだな？イベント戦が忙しくて勉強できなかつただけなんだよ！ほら、俺は悪くな・・・」

「覚えてるわよね？テストがダメだったら、・・・どうなるんだつたつけ？」

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
アハ

ちょー？かがみー腕はそつけて曲がらな・・・めやああああああああ！？

「さて、闇ゲームは何にしておられる？」

「優しさの欠片も無いな、オイ！？」

ゆたかちゃんの誕生日会・・・ガチで行けるのか、心配になつてき  
た・・・！

第38話 テスト何それ？おじいこの？（後書き）

『スーパー塔カ！スーパートラー・スーパーバッタ！』

『スバババ・タ・ト・バ・タ・ト・バ！』

メガMAXがよかつた！オーズ最後の戦いかと思つたら、ゲフンゲフン。

最後のオーズとフォーゼの戦いは感動した！DVDでたら借りに行  
こづー（笑）

テストダメダメな優希！

果たしてゆーちゃんの誕生日会に行けるのか！？

次回、特別編 12月20日といえば

お楽しみに！（＝〃・）

今日は、クリスマスの4日前！お父さんやお母さんが忙しい日だ  
！！

「優希くん？分かってて言つてるなら入れないよ？」

バタン ガチャガチャ

え？ ちよ、こなたさんっ！？ 待つて！？ 冬の寒い時に外に放置はや  
めてええええええええ！？ ぶえーくしょん！？ な、何だこれ！？ 何  
でカギが！？

ガチャ

「もうひーー近所さんに迷惑だから早く入つてよ！」

よかつた・・・・・家の前で某会長みたいに、ハッピーバースデー！  
つて、言つて終わりかと思つた・・・・！

「早くしてよー今なら、お父さん居ないからー」

そ、それはどういう意味何だ・・・？ はつ！？ 大人の階段を登るチ  
ヤンス・・・

その瞬間！キレイなロー・キックが炸裂して、倒れたところで誰かの  
足に当たった。

顔を上げて見るとそこには、人類未踏のぱきやあああああああああ

!?

「わ～、ゆたかちゃんす～」ご～～でも、すこちやん大丈夫かな？」

「みんな、早く入つてよ～～ほら、優希くんも倒れてないでは～や  
～く～！」

やつは、壇つてもみゆきのキックつて意外に痛いんだぞ？いたたた・  
・・

・・・・・・・・・・

「　　「　　「　　「　　「　　ゆたか（ちゃん）！誕生日おめでとひ～～～～」

「　　「　　「

パーン～～と、勢いよくクラッカーが鳴り響いた！・・・あれ？こ  
んだけ音デカイんだつたら、ゆたかちゃんマズインじゃね？つて、  
思つたとたん、ゆたかちゃんが倒れた・・・かに見えた。

「つー・・・ゆたか・・・～」

みなみちやんの助けのお陰で難なくセーフ！危なかつた～！

「キタキタキタキタ～～～倒れそうになつた姫を助ける王子・・・

ね、ネタが次から次へ溢れでるつす！」

「お前、本当に一人の友達か……？今は、助けたり、心配する場面だろー？」

「ゆーちゃん、ゴメン…やつぱり、クラッカーの量が多かつたよね…」

「お姉ちゃん、大丈夫だよ～？ちょっと思つてたより、音が大きくてびっくりしただけだから」

「ふう～、よかつた～！てつきり一番近くで鳴らした俺のせいかと…」

「あ～、でも、優希先輩？田の前で鳴らされたのは流石にびっくりしちゃいますよ～？」

「へー？いや、俺そんなに近くで鳴らしてないよ～？もひさよつと後ろのほうだった…」

その瞬間！ある者は、蹴りや格闘技などを使い、またある者は、俺の口にケーキを入れ、またまたある者は、それを見てネタ帳に書き混んでいた。

「もがつー？もがががー！？（誰だー？ケーキ入れたのー？）

言つて気づいた。

俺はみんなからたくさんの思い出をもらつた。たくさんの笑顔とともに。

おかげで、今はみんな笑いあえる・・・そんな日常があと少しで終わるんだって・・・

だから、俺は・・・

「……………」

「え？ 優希くん何か言つた？」

「いへや、何でもない！それより、ゲームとかやらひげーゆたかち ゃん！一緒にやらひげーひーりばーりばー！」

・・・・・・・・・

「ああ～！？何でカード使こしつた後にまだ、なすりつくれるんだよー？」

「フツフツフツ、ヒキたいカードをイメージする・・・これがモモ テツのダイゴ!!」

「これは、そんなゲームじゃねええーゆ、ゆたかちゃんつーといあ えず逃げきればまだ、勝てるぜーあとほ、任せた！」

「ええ～！？優希先輩！？無理ですよ～！？」

「諦めんなよ～っす！最後までわかんなこ～すよ～？」

ピンボーン

ん？誰か来たのか？

こなたのほうを見てみると青ざめた顔で『あ～あ、やつちもつた～  
みたいな田でみてきた。』

何だよ？何が起ひる・・・はつー？

確か・・・じなたのお父さんと会つたらマズイんだろう？何故かは知  
らんが・・・

「優希くん・・・油断してたよーおとなしくやられてね」

はあつー？何で会つだけで殺されなきゃいかないんだ！？

そんな話をしつゝ聞こなたのお父さんとドアを開けて入つてき  
た・・・！

特別編　12月20日とこねま・・・（後書き）

20日を完全に過ぎてます！すいませんでした！

間に合わせようとがんばったんですが・・・バイトが・・・って、  
言い訳言つてるみたいなんでやめます！

本当にすいませんでした！

これからも見てくださいると、作者は泣いて喜びます！（笑）

では、また次回で！

## 第39話 メリークリスマスー（前書き）

「なた「ああ始まるザマスよー。」

みゆき「いくでガンす」

つかさ「ふんがー」

かがみ「まともに始めるよー。」

優希「そりゃー。」

「なた「あ三年B組い？」

「なた・みゆき・つかさ」「黒井先生ーーー。」

かがみ「はいはー」

優希「最後にー！ハイツ！」

みんな「」「メリークリスマスーーー。」

優希「リア充ばあれー？ちよつとー？予定と違ひじやんー？」

かがみ「折角のクリスマスを台無しにしてどうすんのよー。」

つかさ「やうだよー。せり、早く座つて座つて

みゆき「泉さん、お願ひします

こなた「それでは本編・・・スタートー！」

## 第39話 メリークリスマス！

会つただけでヤバイだと……！」いや、本気でいくしかないな……

・！魔力全開……！開放！

手にはいつでも防げるように力をいれて、足はいつでも逃げれる体制に……よっしゃー！何処からでもかかつてこーーー！

ドアを開けて、そこに居たのは……

「はいーー、ゆたか、誕生日おめでとうーーみんなも久しふりー！」

……ゆことなんだった。なんだよー焦った……。

「なんだゆい姉さんかあーーお父さんかと思つたーー……」

「でも、よかつた～おじさんだったら、優希先輩見たひどくなつちやつかと思つちやつた」

「ケンカとかになつたらどうするのかな～って、私思つてたよ～」

「なたとゆたかちゃんの心配する気持ちは有難いんだが……つかさ！ーー会つた瞬間、ケンカつてどういうことだよ！？流石にあり得ねえよ。……モンスターペアレントとかじやない限りだけどな……

その時ゆさんの後ろからペーパーバッグが落ちる音が聞こえた……あれ？まさか……

「お、お父さん！？居たの！？」

こなたが言うお父さんとやはり、作務衣に無精髪、もつとも特徴的なのは藍色に近い青の髪の毛だった・・・って、冷静に分析して居合じやない！？やられる！？

「お～、みんないらしゃい・つんうん、女子10人に対しても俺は・・・やつぱり勝ち組だあ～！！」

うんうん、その気持ちは分かりますよこなたのおやつせん！

・・・あれ？女子10人？こなた、かがみ、つかさ、みゆきの三年生組にゆたかちゃん、みなみちゃん、ひより、パーティ。そして、ゆいさん・・・あれ？あと一人・・・？まさか・・・！

「あの～こなたのお父さん？」

「おお、初めまして。こなたの父親のそづじゅうつていうんだ。よろしくつ～！」

こなたと話している気分になるのは・・・アレだな。似すぎだろ！？

「あ、俺水野優希つていいます。よろしくお願～」

「優希・・・？い、イヤ聞き間違いだな。すまない、もう一度聞かせてくれないか？」

何故なんだ・・・言つたら、人間に戻れなくなる・・・気がする！！

二十一、甲子年

「水野優希です！」

「ええええええええええええええええー!? 男なのー! ?」

「おひへじゅうべー・またかねー・本郷やめりぬおおまかー・」

• • • • • • • • •

今は12月24日・・・つまりは、クリスマスだ！しかも、雪降つてる！ホワイトクリスマス！！

「あんたは何バカやつてんのよ。早く行くわよ」

かがみが・・・雪のように冷たい・・・違ひ一これは。みさお  
のセリフだ！-俺のセリフじやない！

「優希くん。それ、何かががみが死んだみたいに聞こえるよ?」

「回り」とやんなー? セツセツと圓つて歸るわよー。」

何? 何でイキナリ24日に飛んでるかって?

それは、あれだよ？時間を進める魔法……ザ・ワールド……を使つたんだよ！

「イヤ、止まつてゐから

あの後、どうなつたかって？

そうじゅうせんは俺が男だと気づいた瞬間、『男の娘は一次元のなかだけよおおおー！』と、自分の部屋に閉じこもってしまった。

正直、言つて俺も逃げたかった……。だってあの後の空氣の悪さといったら……！バルサミコ酢にチヨコを混ぜて作ったチヨコロネみたいな感じだ……！？

そこで、こなたの提案でもう一度……といつよつ、改めてクリパでもやらないか？と、なつた。

それで、俺、かがみ、こなたの三人で足りなくなつた材料や、パティーフィッシュを買いに来た、というわけだ。

「こなた？ロウソクはここのよね？」

「ロウソクはあるからいいよ。それより、かがみ？あっちのケーキがかがみを呼んでるよ？」

「んなわかるかッ……」

「おーい、終わつたんなら早いとこ戻ろっせ～雪が段々ひどくなつてきてやがる」「

こつして、足りなかつた物やかがみのお腹に納める供物を買ひ、俺達は帰るゝとした。

「な、何故超ウルトラスペシャルデラックスクエクストラボックスがここに？」

「長い名前だなオイッ！？」

かがみのシックノリをスルーし、こなたは離れようとはしなかつた。おもちゃ屋さんのガラスに向かつてグッズを見る姿は、本当に可愛らしき小さな女の子にしか見えなかつた。

でも、何で寂しそうな顔をするんだ？グッズならいつか手に入るだろ？

さういふ、雪がひどくなつてきたため、俺はこなたにこいつをついた。

「別に今度でもいいだろ？俺が付き合つか？」

そう言いつつこなたの肩に手を置くと、こなたは諦めたのか、再び歩きだしてくれた。

「・・・わ、行きましょ。優希くん？」

「やうだな？おーい、待つてくれよーこなたー！」

とつあえずバイトでもやらないとな・・・今さつきや、時々見せるこなたの寂しそうな顔を見たくなかつた・・・

こじで何か買つてプレゼントして、付き合つていう王道フラグを

回収させても、もういいぜ！……まあ、考えたらあり得ないな。意味なかつた……！

「よ～し、全速前進だ！！」

元気いいなー？何処の社長だよー？粉碎！玉碎！大喝采！…する気か！？

かがみ side

今、優希くんがこなたの肩に触った時、ペンダントが紫色に光つた  
よつな・・・・？

氣のせいよね？前、光ってるのを見た時はエメラルド・・・みたい  
に光つてたもん。

多分、何処かのネオンの光よね？この胸のとてつもなくざわめきは  
氣のせいよね？

あつー？優希くんもこなたも待ちなさいよー！

私は、これが氣のせいだと信じていた・・・

けど、現実は・・・そうじゃなかつた。



## 第39話 メリークリスマス！（後書き）

メリークリスマス！

ここで一句言つてもいい？

優希「ん？ いいんじやないか？」

クリスマス カードをいじって 過（ハジマス

優希「……………」

クリスマス 小説書いて 終わ（ハラマス）（涙）

優希「悲しすぎるわつー・・なんだよ、上の二つはー・・」

あよ、今日の私だよ！？悪い！？

優希「何かやることあつただろ？」

「ここで緊急告知きま～す！～！」

正直・・・の小説そろそろ終わらうとうこなもつてこいつ。

優希「うおおい！？ 正直すぎるひだりー・・何でだよー・？」

それは、話が終わるからだよー・・あ、どうなる優希！？ がんばれ優希！？ 君の肩に私の人気がかかるつてこいつ。

希！？ 君の肩に私の人気がかかるつてこいつ。

では、また次回で！

優希「ちよー？ ツツ」「!! もうひとつ？」

## 第40話 残された月日（前書き）

今年、最後の更新です！（〃〃・）

後、何話になるかは分かりませんが・・・楽しんで行って下さいね  
♪！

## 第40話 残された月日

ふあ～、そろそろ寝るかな？もうイベントも終わるし・・・なにより疲れた～。

俺はパソコンを切り、イスから立ち身体を伸ばして、柔軟体操をした。これが気持ち良いんだよな～！

そして、押入れからベルトを出して・・・

「えっと・・・メダルは何処にやったかな・・・？」

『 プテラにトリケラにティラノでプトティラコンボ！・・・俺に・・・力を！！』

『 プテラー！トリケラ！ティラノ！プトティラ～ノザウルス～』

くう～～～！何回聞いてもいいぜ！プトティラソング！未来永劫飽きない！

『スキヤニングチャージ！』

はあああ・・・！セイヤアアアアアアアア！・・・つてな？やべえ、楽しい！

クラッ

あ、あれ何かクラッときた。ヤバイな・・・風邪かも・・・？

ベルトを外して、ベッドにダーイブ・・・何て余裕は無いーー倒れこむよつこ・・・といつより、倒れた・・・・・

その時、ゆづくつと聞こじられた田に見えたのはめぐら貫つたペンダントが紫色に輝くといつだつた・・・

・・・・・・・・・・・

『田覚めよ・・・

「ん・・・誰だよ・・・?俺は、眠いんだよ・・・つて、誰だ!?  
しかも、何処だよここー?あ、ここは知つてゐな

俺が居た空間はこつぞやめぐると話(?)とこつよつ、アニメみたいな展開だつた話を聞かされた場所だつた。

でも、前回と違うのは前はペンダントと同じ色のヒメラルドっぽい空間だつたのが、今回は最後に見たペンダントの光の色だつた・・・そう、紫色の混じつた空間だつた。

『田覚めたか・・・』

声がした方を見てみると、ペンダントが浮いていた。しかも、この空間と同じ状態になっていた・・・オイオイ、夢にしては悪夢すぎるので・・・夢ならさめり！

『お前の欲望が田覚めるのを待つていた・・・』

俺の欲望？意味がわからん？また、長門話でもする気か！？

「またこの空間に勝手に連れて来られて今度は勇者になる誘いか？  
ない、断らせてもらひばせ？」

『貴様はこの空間に来た事があるのか・・・？』

アラストールかよつー？って、ツツコリ/たいけじ流石にそんな空氣  
じゃないな・・・

「ああ、あるぜ？めぐるつていつぱよつと怪しい系の美少女に連れ  
て来られてな」

『！？バカな・・・！何故奴がここに・・・！奴の力は世界を・・・  
いや、言つまこ・・・』

イヤ、そこまで言つたら最後まで言えよ！？それより、世界？何で  
めぐるが世界なんて大きな話に関わってるんだよ！？

『そりいえば貴様は記憶が無いんだつたな・・・』

お前も知つてゐと思つたよ・・・戻す方法何か知らないか？

まあ、知つてゐるワケないよな～

『戻してやるつか・・・貴様の記憶を・・・』

ほらな、やつぱり戻せるん、ええつ！？戻せんのかよ！？俺の記憶！？

「どうやつたら戻せるんだよー？」

『我を望め・・・我を取り込め・・・すれば汝の欲望、叶うだろつ・・・このようにな・・・』

やつがやつと黒い何かが俺の身体に不快感とともに襲ってきた！

ぐつー？何だこの感じは！？胸の奥から、何かがでてくるみたいな感じは何なんだ・・・！？い、いや、そんな事より大変な事をこいつは言つた・・・！

俺の願いを望めば、こいつは願いを叶えてくれる・・・そんな都合のいい話があつてたまるかよ！

「で、それは俺にとつてノーリスクハイリターンなのか？それとも何か条件でもあるのか？」

『なに、簡単なことだ・・・ペンダントが紫に光る時ペンダントを掴め・・・』

ペンダントを掴むだけで、記憶が戻るのかよ！？最初から言えよ！

そんな、簡単なことで記憶が・・・・・

記憶が・・・・・・・・

『どうした・・・? 戻したくないのか・・・』

あ、頭の中に・・・! こなた達と居た、今までの思い出が・・・!  
頭の中に・・・移し出されて、いく!?

『早くペンダントを受け入れろ・・・』

「俺の中に・・・何かが・・・! 強い・・・何だよ・・・! ? があ  
ああああああああああああああ! ! ?」

『そうだ・・・受け入れろ・・・! ・・・はつ! -!  
その瞬間、紫のエネルギー弾が何処からか現れ、俺の身体に直撃し  
た!

エネルギー弾が現れたところには・・・この空間で会った時と同じ  
姿で彼女は立っていた・・・

「なん・・・で・・・?」

めぐるがいた・・・



## 第40話 残された月日（後書き）

また夢の中に行ってしまった優希！

こなた「でも、今日は前回とかなり違ったよね？」

この物語の崩壊が始まつだしたんだよ・・・

こなた「え？ それって一体どういった事？」

今年中に終わるかな・・・つて、思つたけど・・・流石にムリでした（笑）

こなた「ちゅうとー今年中に終わる予定だったのーへ初耳だよーへ

ま、そりは気にしないでー（＝・・・）

読んで下さった皆さんー今年はありがとうございました！

こなた「来年もよろしくお願ひしますー」

では、よろしくお年をー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0642t/>

---

らき すた 彼女達と過ごした日々・忘れられない宝物

2011年12月31日16時54分発行